

平成29年度事業実績報告（案）

自：平成29年4月 1日
至：平成30年3月31日

目次

事業実施状況並びに期末評価	1～26
事業別利用実績	27、28
年度別利用率の推移	29
利用者の状況	30、31
事業・職種別職員数一覧	32
職員の動向等	33
施設外研修一覧	34
施設内研修一覧、資格取得状況一覧	35
外部実習受入及び地域交流等の状況	36、37
苦情解決	38
地域包括支援事業（上越市受託事業）	39～41

社会福祉法人 上越頸城福祉会
しおさいの里等複合施設

特別養護老人ホームしおさいの里
障害者支援施設 さいはま園
デイサービスセンター ゆりかご荘
しおさいの里居宅介護支援事業所
地域包括支援センター うのはな苑

平成 29 年度 事業実施状況ならびに期末評価(案)

1-1) しおさいの里等複合施設全体

事業目標：六華プロジェクトの最終年度として、地域と共に存しながら、関わるすべての人たちが生き生きと感じられる事業運営のさらなる向上を目指します。

重点目標	現状	今後
①「介護予防」から「中重度の要介護者」まで、幅広いニーズに応える観点からの「支援・ケア体制の充実」を図ります（介護予防教室だんだん広場、半日型デイサービス、一日型デイサービス間での人的交流の促進等）。	<p>介護予防教室だんだん広場に、各事業部門間での人的交流を継続し進めってきた。だんだん広場からデイサービスへ移行する利用者の流れも出来てきている。一日型、ショートステイへの利用の動きもある。</p>	<p>今後も介護予防教室だんだん広場を続けるにあたり、各部門間の協力をいかにするかが課題である。</p> <p>特定の部署・人材だけでなく複合施設としての関わりについて検討をすすめる。</p> <p>デイサービスでは、サービスのマンネリ化が課題である。内容の検討を進め新たに、朝食サービスを検討している。食事の提供方法について課題が残っているが、利用者確保の一つとして進める。</p>
②地域や関係機関等、外部との交流を促進することで、地域に暮らす高齢者の活躍の場の提供や施設利用者の生活支援の充実に努めます（施設内クラブ活動の充実とボランティアの積極的な受け入れ。夕映えの郷とのさらなる業務連携等）。	<p>他職種やボランティアの協力のもとクラブ活動（縫い物・畑・将棋）を行なってきた。好評である。</p> <p>冬場は畑での活動は休止していたものの、その人らしく笑顔で過ごして頂ける様、様々なクラブ活動を行なえた。</p> <p>アロマハンドマッサージを導入し、活動的なものに参加する機会が少ない利用者への取組みも行なってきた。</p> <p>クラブでは作品を認知症カフェなどで販売するなど、地域との関わりや利用者同士の関わりを継続して行っている。</p> <p>ボランティアの受け入れも積極的に行っており、リネン交換等の業務も地域のボランティアの方達の協力を継続している。</p> <p>夕映えの郷と利用者交流（じょんのびカフェ等）や業務連携等定期的に担当者で会議を開催都度調整している。</p>	<p>これまでの活動を振り返り、多くの利用者が参加できる活動を取り入れる。ボランティアの方々の協力を得ることを継続すると共に、各部署の多くの職員が関わる方法を探る。</p> <p>夕映えとさいはま園との連携では、いくつかの合同行事を行った。双方の利用者も楽しまれており、今後の継続につなげたい。</p> <p>ハートフルの買い物代行業は、さいはま園の利用者の利便性の向上の柱の一つであり、同時に介護業務軽減につながっている。夕映えの郷の体制見直しにより縮小あるも、今後も連携を取っていく。</p> <p>奉仕活動については今後も継続していく。</p>

	<p>また、さいはまの介護外業務を夕映えの郷の就労につなげる件は、現時点で委託する業務内容と時間を精査し、打診中である。</p> <p>毎年恒例の奉仕活動（地域と合同で行なう奉仕活動）も実施。</p> <p>犀潟児童遊園（神社裏）の草取り清掃活動を行なった。</p>	
③法人内「認知症介護指導者」の配置を継続するとともに、各ユニットに認知症ケア担当職員を選び、組織的な取り組みを推進します。	<p>職員研修会（内部）を認知症介護指導者のものと、これまでに4回開催。認知症介護基礎研修・実践者研修等の外部研修にも参加し、認知症ケアの充実に向け取り組んでいる。認知症ケアについて検討する委員会チーム「DCUプロジェクト」を立ち上げ1回/3ヶ月で取り組んでいる。</p>	<p>認知症ケア充実に向け内部、外部の研修に参加を継続し、認知症ケアについての理解と充実を継続していく。</p> <p>DCUプロジェクトでの取り組みを、各部署・施設全体での取組みに結びつけられるよう検討する。</p>
④職員が健康で、生き生きと働ける環境づくりに努めます。その一環として、精神面（ストレス軽減）に配慮した取り組みを推進します。	<p>5月に外部講師を招き夕映えの郷を含む法人全体で職員のメンタルヘルス研修を実施し、職員の心の健康づくりに取り組んできた。また、職員健診実施に際し産業医の意見・指示を的確に把握できるよう取り組んでいる。</p> <p>衛生委員会で安全衛生チェックを実施し設備・備品の確認の他に各職域における職員の心の健康に関し把握と情報共有を行っている。</p> <p>利用者の重度化・職員の短時間勤務（育児・介護等）・退職・産休・育休・妊娠業務等の理由で欠員となり、各部署で協力している。職員の負担は大きい。負担軽減（介護機器の導入や活用等）の検討は継続して行っていく。また、職員間のコミュニケーションを大切にし相談しやすい環境を整えるよう努めている。</p>	<p>メンタルヘルスチェックの活用の見直し等、職員のメンタルヘルスに対する取組み継続課題としたい。</p> <p>衛生委員会を中心に、働きやすい環境（ハード面）の取組みを行なってきている。ハード改修をすることで環境整備が出来ている。職員の負担軽減の観点から、ハード面でいかせることを今後も検討する。</p>
⑤キャリアパス要件（職員の職位、職責、職務内容等に応じた任用等の要件）について、夕映えの郷と共同で検討することで職員の待遇改善を図ります（現	<p>4月より待遇改善加算のランクを一つ上げ加算Ⅱとした。30年度は加算Ⅰを取得のため、給与規定等の見直しを行なった。</p>	<p>加算Ⅰの取得することとした。キャリアパス要件について、今後も夕映えと情報共有しながら進めたい。</p>

行の介護職員処遇改善加算の見直し等)。		
⑥適正な入札、見積の実施や、業務改善、コスト意識の向上により、さらなる経費削減に努めます。	<p>コストに係る見直しは都度進めている。補助金を活用することが出来る物は活用してきた。また、寝具類については業者を見直し入札することで、経費の削減につながった。</p> <p>新電力の見直しで、部分供給から全面供給に変更したことによる経費削減が見込まれている。</p> <p>節水についても一定の効果が出ている。</p> <p>光熱水費の節約に努めるよう、職員に定期的に使用量の報告をし意識を促している。</p> <p>効率的な経営に努めるよう法人としてインターネットバンキングを導入。経費等振込手数料の削減につなげた。</p>	<p>今後もコスト削減を意識し、現在取り交わしている、契約内容の検証を進めていく。</p> <p>職員への経費削減の意識を継続し促していく。</p> <p>また、新たに導入する物に対して、費用対効果を常に意識して検討することを継続する。</p>
⑦上越市が第7期介護保険事業計画（平成30年度～）で実施を予定する「地域包括支援センターの再配置」に伴い、事業受託継続に向けた取り組みを推進します。	<p>上越市のセンター再配置を受け準備を進めてきた。2月より頸城総合事務所にて開設準備室を開設。地域への各種団体等への挨拶を行ない。4月の開設を迎えている。</p>	<p>大潟と頸城の連携を整えると共に、頸城区と法人のネットワーク推進を進める。</p> <p>地域団体と施設と協働して地域の高齢者が活躍出来る様アプローチしていく。</p> <p>包括を幅広く知って頂く為の普及・啓発を検討する。</p>
⑧非常災害ならびに防犯に係る対策を強化し、利用者及び職員の安全を確保する（非常災害計画の見直し、避難訓練の実施、福祉避難所の運営、防犯カメラ設置の検討等）	<p>6月に総合避難訓練（夜間想定）を実施。10月に夕映えの郷との合同避難訓練を実施した。消防署職員からは、訓練について高評価を頂いた。地域防災員の協力方法等マニュアルの見直しを進めている。</p>	<p>今後も、国や県からの情報に基づき、対応の見直し等継続して進めていく。</p> <p>定期的に対応を見直し、防災に努める。</p>

1-2)在宅支援課

部門目標：介護予防から要介護まで、継続かつ一貫性のあるサービス体制の構築を目指します。

重点目標	現状	今後
①介護予防教室だんだん広場、半日型デイサービス、一日型デイサービス間で	・今年度4月からデイサービスの生活相談員が介護予防教室だんだん広場	◎次年度の方向性 ・「介護予防」と「重症化予防」の両立

<p>の人的交流を促進させ、一人ひとりのニーズの変化にも柔軟に対応できる支援体制の構築を目指します。</p>	<p>の脳トレ担当として加わり、また下半期には新たに採用した地域包括スタッフも加わる等、各事業部門間での人的交流を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果として、だんだん広場からデイサービスへの利用移行といった新たな流れが生まれてきた（現在、だんだん広場からデイサービスに移行した利用者：6人） ・半日型デイサービスの延べ利用者数が前年同月比で204人上回った。 ・1日型デイサービスについては、新規利用者の受け入れがある一方で、長年の利用者が施設入所や体調悪化により長期入院するケースが増えたこと、また豪雪の影響により冬期間のキャンセルが例年より多かった等の理由から昨年度を431人下回った。 <p>(表1)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="595 1028 817 1179">だんだん広場からデイに移行した利用者</td><td data-bbox="817 1028 1008 1179">3人（半日型：2人、1日型1人）</td></tr> <tr> <td data-bbox="595 1179 817 1313">だんだん広場とデイを併用する利用者</td><td data-bbox="817 1179 1008 1313">3人（半日型：2人、1日型1人）</td></tr> </tbody> </table> <p>(表2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="595 1358 1008 1448">デイサービスセンター利用状況 (29年度)</th><th data-bbox="1008 1358 1008 1448"></th><th data-bbox="1008 1358 1008 1448"></th><th data-bbox="1008 1358 1008 1448"></th></tr> <tr> <th></th><th>29年度</th><th>28年度</th><th>前年比</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="595 1560 659 1875">半日型</td><td data-bbox="659 1560 817 1875">延べ973人 (月平均81人) (日平均3人)</td><td data-bbox="817 1560 1008 1875">延べ769人 (月平均64人) (日平均2人)</td><td data-bbox="1008 1560 1008 1875">+204人</td></tr> <tr> <td data-bbox="595 1875 659 2021">1日型</td><td data-bbox="659 1875 817 2021">延べ7,040人</td><td data-bbox="817 1875 1008 2021">延べ7,471人</td><td data-bbox="1008 1875 1008 2021">-431人</td></tr> </tbody> </table>	だんだん広場からデイに移行した利用者	3人（半日型：2人、1日型1人）	だんだん広場とデイを併用する利用者	3人（半日型：2人、1日型1人）	デイサービスセンター利用状況 (29年度)					29年度	28年度	前年比	半日型	延べ973人 (月平均81人) (日平均3人)	延べ769人 (月平均64人) (日平均2人)	+204人	1日型	延べ7,040人	延べ7,471人	-431人	<p>→利用者の生活安定を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括再配置に伴う受け入れ圏域の拡大に対応→選ばれる事業所を目指す ・制度改正等に対応した新たなサービスや生活支援策を検討
だんだん広場からデイに移行した利用者	3人（半日型：2人、1日型1人）																					
だんだん広場とデイを併用する利用者	3人（半日型：2人、1日型1人）																					
デイサービスセンター利用状況 (29年度)																						
	29年度	28年度	前年比																			
半日型	延べ973人 (月平均81人) (日平均3人)	延べ769人 (月平均64人) (日平均2人)	+204人																			
1日型	延べ7,040人	延べ7,471人	-431人																			

		(月平均 586人) (日平均 22人)	(月平均 622人) (日平均 24人)		
②上越市が第7期介護保険事業計画で実施を予定する「地域包括支援センターの再配置」計画に関する情報収集を行いながら、事業受託継続に向けた具体案を検討し、上越市に提案します。	・検討から受託決定、開設までの経過は下記の通り。 (表3)	③次年度の方向性 ・新地域包括支援センターの安定的な運営（大潟拠点と頸城サテライトとの連携） ・頸城区と当法人とのネットワークの推進			

	<table border="1"> <tr><td></td><td>採用、4/1 看護師採用)</td></tr> <tr><td>H30. 1月</td><td>頸城区総合事務所内 事務室改修工事</td></tr> <tr><td>H30. 2月</td><td>頸城くらし支援室開 設準備室設置（3名の 職員配置）</td></tr> <tr><td>H30. 3. 31</td><td>地域包括支援センタ ーうのはな苑廃止</td></tr> <tr><td>H30. 4. 1</td><td>新センターによる業 務開始</td></tr> </table>		採用、4/1 看護師採用)	H30. 1月	頸城区総合事務所内 事務室改修工事	H30. 2月	頸城くらし支援室開 設準備室設置（3名の 職員配置）	H30. 3. 31	地域包括支援センタ ーうのはな苑廃止	H30. 4. 1	新センターによる業 務開始	
	採用、4/1 看護師採用)											
H30. 1月	頸城区総合事務所内 事務室改修工事											
H30. 2月	頸城くらし支援室開 設準備室設置（3名の 職員配置）											
H30. 3. 31	地域包括支援センタ ーうのはな苑廃止											
H30. 4. 1	新センターによる業 務開始											
③居宅介護支援事業所における介護支援 専門員の配置数（増員）について、地 域の要介護認定者数の実情や地域包括 支援センター再配置の具体案と併せて 検討します。	<p>・29年度の担当受持件数は前年度に比 べ20件増加した。</p> <p>・昨年8月に来年度からの地域包括支 援センター受託内定に伴い、今後頸城 区に暮らす要介護者等からの紹介依 頼の増加が見込まれること、ならびに 介護支援専門員の業務遂行における 適正な受持件数の観点から、今年度下 半期でのスタッフ1人の増員（3人→ 4人体制への移行）を検討し、H30. 1. 1 付けて外部から1人を採用した。</p> <p>(表4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当 件 数 の 実 績 (4 月 ~ 2 月 期)</th><th>29 年度 1,243 件 (月平 均 103 件) (1人 あたり 26 件)</th><th>28 年度 1,223 件 (月平 均 102 件) (1人 あたり 34 件)</th><th>前 年 比 +20 件</th></tr> </thead> </table>	担当 件 数 の 実 績 (4 月 ~ 2 月 期)	29 年度 1,243 件 (月平 均 103 件) (1人 あたり 26 件)	28 年度 1,223 件 (月平 均 102 件) (1人 あたり 34 件)	前 年 比 +20 件	<p>◎次年度の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ4人体制によるケアマネジ メント力の向上 ・地域包括再配置に伴う受け入れ圏域 の拡大に対応→選ばれる事業所を目指 す 						
担当 件 数 の 実 績 (4 月 ~ 2 月 期)	29 年度 1,243 件 (月平 均 103 件) (1人 あたり 26 件)	28 年度 1,223 件 (月平 均 102 件) (1人 あたり 34 件)	前 年 比 +20 件									

1-2-1) 地域包括支援センター

部門目標：上越市大潟区の「地域包括ケア」の中核機関として「公益性」、「地域性」、「協働性」の基本的な視点を持って、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を送ることができるよう「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。

重点目標	現状	今後
①包括的支援事業を効率的・継続的に取 り組むために活動内容の点検や評価、	・毎月の地域包括運営会議で取り組み 状況を点検した。	・地域包括の事業範囲拡大に伴い、拠 点とサテライトが連携して業務が行え

<p>業務のマニュアル化など管理体制を強化していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度に向けて業務内容の見直しや各事業のマニュアルを作成するなど業務の統一化を図るために取り組んだ。 	<p>るよう地域包括運営会議で取り組み状況を点検する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて業務の見直しを行い、業務の統一化を推進していく。
<p>②見守りネットワークの体制づくりを具体的に取り組んでいくために関係者と協議していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議で行政、住民団体、町内会、民生委員、老人会、社会福祉協議会の代表者と地域課題を確認し、今後も継続して集まり、テーマをもって話し合いをしていくこととなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大潟区では引き続き、各関係機関の代表者と会議を持ちながら見守りネットワークの構築に向けて取り組んでいく。
<p>③地域の元気な高齢者が生き生きとした活動が継続できるように他機関と連携を図り、住民同士のつながりを支援していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体やしおさいの里ボランティアコーディネーターと協働し地域高齢者の活動の場を提案・広報を実施。また、要支援者のインフォーマル・サポートとしての機能も兼ねることで、エンパワメントの促進にもつながった。このことから、住民同士のつながり、そして住民と福祉事業所のつながりにも貢献できたと評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括の事業範囲拡大に伴い、地域高齢者の活動人材の拡充が見込まれる。そのため、活動の内容や提案について、現状や地域のニーズと照らし合わせた検討が必要であると考える。引き続き、地域団体やしおさいの里と協働して高齢者が生き生きと活躍できる地域となるよう積極的にアプローチしていく。
業務目標① 総合相談支援事業	現状	今後
<p>a. 地域の様々な相談に対し、関係機関と連携を図り、適切な支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ1,231件の相談があり、区総合事務所や介護サービス事業所だけでなく、民生委員や地域の関係者、関係機関とも連携を図りながら支援を行った。 ・相談内容によって職員間で連携し、お互いの専門性を發揮しながら支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な関係機関と連携を図りながら支援をしていく。
<p>b. 地域住民の見守り・相談体制を強化するために、高齢者とのつながりのある銀行や商店等の関係機関へパンフレットや広報誌を配布するなど周知活動を強化していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務多忙のため、銀行や商店等へ具体的な広報活動は実施できなかった。(1月の新年祝賀会に参加し、挨拶をした程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括の事業拡大に伴い、地域包括の理解・普及活動をこれまで以上に強化する必要がある。地域資源の一覧表を作成し周知活動がモニタリング・評価できるように取り組む。
<p>c. 65歳以上の独居高齢者及び65歳以上の高齢者のみの世帯を個別訪問し心身の状況、家族等の状況等の実態把握を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間67件を訪問した。訪問件数は少ないが、サロンなど高齢者が集まる場所に訪問した時に状況確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括の事業範囲拡大に伴い、頸城区で高齢者に周知するために積極的に訪問活動を行っていく。
業務目標② 権利擁護事業	現状	今後
<p>a. 高齢者虐待や消費者被害の防止、日常生活自立支援事業、成年後見制度等の普及・啓発を目的に講演や研修会を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロン、だんだん広場等の高齢者が集まる場所で権利擁護に関する情報提供を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括の事業拡大に伴い、大潟区・頸城区の高齢者を対象に普及・啓発を行っていく。講座や研修会は合同で開

実施します。	<p>・平成29年8月には、だんだん広場の合同講座にて上越警察署生活安全課の小山様をお招きし特殊詐欺の講演会を開催した。地域高齢者との接点で左記内容を意識的に実施できたと評価する。</p>	催する等、より多くの地域住民から興味・関心を持ってもらえるように工夫していく。
業務目標③ 包括的・継続的ケアマネジメント事業	現状	今後
a. 頸城区と合同の個別地域ケア会議を通じて、大潟区総合事務所とともに大潟区の現状と課題の把握に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・大潟区では年度当初にテーマを決めて事例を選定し、地域課題の把握に努めた。 ・頸城区の個別地域ケア会議にも事前打ち合わせから関わるなど頸城区と連携して取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度も市主催で年6回を実施する予定になっている。 ・各区総合事務所と連携し、参加者が事例を通じて支援方法を理解したり地域課題を把握できるようにしていく。
b. 地域課題に対して大潟区地域ケア計画を作成し、効率的・効果的に実施できるよう関係者・関係機関と調整を行い、地域課題について具体的に取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別地域ケア会議後に大潟区総合事務所、居宅会議支援事業所の管理者と地域課題について確認し、地域ケア会議のテーマを決めて取り組んだ。 ・年3回実施し、地域住民から延べ76人の参加をいただき、地域課題について意見を出し合うとともに、関係者との関係づくりを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの取り組みを踏まえ、地域課題を把握し、年3回以上実施を予定（そのうち、1回は医療と介護の連携をテーマに実施するよう市から指示がある）
c. 介護支援専門員に対し、2ヶ月に1回連絡会を開催し、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うとともに介護支援専門員同士の交流や資質向上の場となるように事例検討や研修を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回介護支援専門員を対象にした連絡会は開催できなかつたが、個別地域ケア会議の打ち合わせを通じ介護支援専門員と意見交換をすることができた。 ・頸北・名立地域包括支援センターの連絡会で介護支援専門員の資質向上のため上越市役所高齢者支援課小林様から「利用者の自立支援」をテーマにした研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員と連携し、介護支援専門員同士の交流の場を増やす取り組みを実施していく ・柿崎地域包括支援センターと合同で介護支援専門員の資質向上のための研修会を計画する。
業務目標④ 第1号介護予防支援事業 (介護予防ケアマネジメント)	現状	今後
a. チェックリスト対象者、要支援1及び2認定者に対してケアマネジメントが適切に行えているか職員間で把握しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間904件の給付管理を行った。 ・申し送り等を通じてサービス内容や支援方法を報告するなど、職員間で把握できるようにした。 ・市主催の研修会に参加し、個々のケアプランの点検を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの運営基準を共通理解し、適切なケアマネジメントに努める。

b. 委託している事業所に対して介護予防サービス計画が適切に作成されているか確認を行い、必要に応じて指導していくきます。	・介護予防サービス計画書の原案が適正であるか担当ケアマネと確認を行い、必要に応じて指導を行った。	・介護予防サービス計画書の確認をするとともにできる限りサービス担当者会議に利用者の状態を把握するように努めていく。
業務目標⑤ その他の事業	現状	今後
a. 高齢者の生き生きとした活動が継続できるように「だんだん広場」や「いきいきサロン」等で介護予防の取り組みを提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん広場はまちづくり大潟からの委託と法人独自のサービスとして3クラスで実施。登録は最大10名、介護サービスに移行した方が7名、その他の理由で中止した方は2名であった。脳トレ担当にデイサービス職員が加わり、多種多様な脳トレメニューを提供できた。年2回の効果測定では概ね維持もしくは改善している方が多く、介護予防の取り組みとして一定の効果があると言える。 ・いきいきサロンや老人会に7件の講師依頼があり、体力測定や健康講座など介護予防について取り組みを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん広場は引き続き転倒・認知症予防に特化した取り組みとして職員間で協力しながら運営していく。 ・地域からの講師依頼は地域とのつながりが持てるようになることから積極的に受け入れていく。
b. 地域の認知症に対する理解を深め、対応力の向上を図ることを目的に、頸北・名立地区キャラバン・メイト連合会と連携して認知症センター養成講座を開催します。また、各地区で認知症や健康をテーマにした講座を積極的に開催します。	・地域や小学校、高校等から依頼を受け認知症センター養成講座を開催。新潟日報主催の福祉フェア、ラン伴（認知症支援のイベント）にも参加し、幅広く地域で認知症の理解・対応力の普及活動を実施した。また、7年間に渡り頸北・名立地区キャラバン・メイト連合会の活動支援を吉川・柿崎・頸城・名立・大潟の5包括で実施していたが、連合会の活動定着や個々のキャラバン・メイトの成長に伴い活動支援を終了し自立した団体となつた。	・地域包括支援センターの職員が常に表に立つのではなく、地域住民が主体的に認知症支援の輪を広げるようにバックアップ体制を整えていく。
c. 認知症の方やその家族が気軽に相談できる場所、また地域の認知症に対する理解を深め、認知症になんても住みよい地域を目指すために月1回「認知症カフェ」を開催します。今年度は認知症カフェの運営が、さらに地域住民主体となることに重点を置きます。	・認知症カフェうみまち茶屋には毎月1回、平均30名程度の参加者が集まるようになった。カフェのスタイルとしては、ポピュレーション・アプローチ主体で地域の高齢者の「居場所」として定着してきている。運営に関しては未だ地域包括が主体で動いている	・認知症カフェうみまち茶屋は、地域の高齢者の「居場所」として定着しつづあるため、活動のスタイルを変えず適正な運営が継続できるように今後も取り組んでいく。また、地域包括の事業拡大に伴い、頸城区では認知症カフェが設置されていないため、地域団体

	が、準備や内容について気軽に相談できる関係が構築されている。エビデンスは乏しいが、地域における認知症の理解・普及の一助となっていると評価する。	と連携し、頸城区における認知症カフェ開催に向けて取り組みを行う必要がある。
d. 介護者が介護等に関する知識や情報を得たり、情報交換を通じて介護の悩みが相談できる場となるような「介護者のつどい」を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回（8月を除く）11回計画したが、1月は大雪のために中止とし10回実施した。毎回、6～10名程度の参加があり、地域の健康課題を保健師やソーシャルワーカーから話を聞いたり、施設見学など参加者同士の交流や支援の場となっている。 ・参加者から「実際の介護方法を学びたい」との要望を受け、高齢介護課と連携し、2回介護者教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も参加者同士で支え合うことができるよう随時介護相談や介護者の健康相談に対応する。 ・参加者が固定傾向にあるため、誰でも気軽に参加できるように地域住民や居宅介護支援事業所に周知する。

1-2-2)居宅介護支援事業所

部門目標：利用者が可能な限り居宅において、自立した生活が送れるよう適切なケアマネジメントの実施を目指します。

重点目標	現状	今後
①個別研修計画を各自が実施し、具現化することで質の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に研修に参加し、知識の習得とケアマネジメント業務の技術向上に努めた。研修参加に偏りが生じたが、事業所内で復命研修と資料の閲覧等で補った。 ・職員各自が研修目標を達成できるよう意識しながら業務に取り組んだ。 	制度改定により、質の高いケアマネジメントを実践できる事業所・介護支援専門員の育成について管理者の責務が明記された。事業所の研修計画に沿って、他法人の居宅介護支援事業所とも連携した中で実践力が高められるよう取り組んでいく。
②利用者一人ひとりの強み（プラス面）に着目し、最大限に引き出し、活かすことに努め、その方の自立を支援していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者自身や利用者を取り巻く環境の強みに着目する視点を持ちながら支援に努めた。疾病や老化に起因する状態悪化を除けば、結果として介護認定を下げられることができた利用者もいて、評価できるところと考える。 ・利用者の自立支援にあたっては、自己選択・自己決定へのプロセスに時間をかけて丁寧に支援できた。 	制度改定の基本方針4本柱の一つである「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」に向けて、サービスの根幹を担うケアマネジメントの質が問われている。ストレングスに着目し、利用者の生きる力や意欲を引き出す質の高いケアマネジメントの実践に引き続き取り組んでいく。
③どの場面でも利用者の立場になって物事を考え、その方に何が必要かを捉え、個別の支援、サービス提供を調整して	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点で関わり、支援については事業所内での検討や相談・助言を得ながら、最善の支援に努め、サービ 	利用者中心の視点は、利用者の尊厳を守ることであり、生活を支える基本となる。多職種と連携したアセスメント

いきます。	ス調整を行った。 ・アセスメント～モニタリングのプロセスの繰り返しで個別性のあるケアプラン作成に努めた。	により、利用者のニーズを的確に把握し、適切なサービス提供に努めていく。
-------	---	-------------------------------------

1-2-3)デイサービスセンター

部門目標：地域で暮らす高齢者の皆様が行ってみたいと思っていただけるデイサービスを目指します。		
重点目標	現状	今後
①お試し利用を積極的に受け入れ、ご利用者様が利用してみたいと思えるような暖かいサービスの提供に努めます。	お試し利用の希望には早期に対応し利用中は声をかけたり、帰宅前には感想を聞いたりしながら、利用に結びついたケースもあったが、大潟区3ヶ所のD Sを利用され他D Sを選ばれたケースもあった。	お試し利用の希望には早期に対応し、1日又は半日の利用の中で声かけをし、ご家族様やケアマネにも様子を報告し当センターを選んでいただけるようなサービスの向上に努める。
②ご利用者様、ご家族様の意向を確認し、個々に合わせた支援を行います。	ご利用者様、ご家族様のご希望に添うことができるよう支援を行った。毎月の人権目標にもご利用者の立場になって考えるような目標を立て業務優先にならないように心掛けた。しかし、1日、半日のプログラムがマンネリ化している現状もある。	デイサービスの1日、半日の過ごし方を30年度は変更する。1日では午後からの脳トレや体操を個々に合わせたプログラムに変更する。半日のプログラムも機能訓練重視の内容に変更する。どちらの方もご利用者の意向を確認しながら進めていく。又、早朝・朝食提供サービスも需要を確認し検討していく。
③職員がストレスを抱えないような職場環境を目指します。	職員の個々の事情に配慮、連続した休日、年休などで職員がリフレッシュできるように勤務表を作成した。	引き続き職員がリフレッシュできるよう勤務表を作成していく。職員同士のトラブルも時にはある為、何でも言い合える関係作り、風通しのよい職場環境を目指していきたい。
④新規依頼には迅速に対応し早期利用につなげ、通所介護及び総合事業の現行相当サービス（みなし）の毎月の利用延べ人数650人を目指します。（毎日の利用者数25名以上）	新規依頼には迅速に対応し早期利用につなぐことができた。 一方で長年利用されている方の高齢化やご家族の高齢化もあり、施設入所やショートステイの長期利用、また、新規利用の獲得が少なく実利用人数を上げることができなかつた為、目標数を達成することができなかつた。 毎月延べ平均数：586名 毎月の平均利用数：22名	個々の身体機能に合わせたプログラムの増加、1日の過ごし方の変更を検討、実施し居宅介護支援事業所や包括に営業に行き、アピールし新規利用者の紹介、実利用数増加につなげたい。当センターの弱みを明確にし、強みに変更していく。
⑤半日型デイサービス（主に総合事業の通所型サービスAの対象者）の年間1	新規利用者の受入れは9名だった。 半日利用からスタートしデイサービ	半日利用の方は元気で身体機能の維持・向上を望まれる方が多い。30年

7人の新規利用者の受入れを目指します。	スに慣れたころに1日利用へ変更するケースも多かった。	度は機能訓練重視の内容に変更し、包括、居宅介護支援事業所に営業に行きアピールし新規利用者の紹介、実利用数の増加につなげたい。
⑥介護予防教室だんだん広場との人的交流を促進させ、一人ひとりのニーズの変化にも柔軟に対応できる支援体制の構築を目指します。	半日担当職員2名がそれぞれ月1回だんだん広場の脳トレを担当し、また介護職員1名がうみまち茶屋に参加し、なじみの関係を築くことができ、だんだん広場の方が半日利用、1日利用へ移行されるケースが6件あった。	30年度も半日担当職員がそれぞれ月に1回だんだん広場の脳トレを担当し、なじみの関係を築きだんだん広場の利用者が半日利用へスムーズに移行できるように対応していく。 30年度のうみまち茶屋は半日担当職員が参加し地域の方と接する機会を持ち、半日デイサービスを知っていただく。
⑦在宅支援課各部門や関係機関と連携を図り、情報を共有し、在宅生活が続けられるように支援いたします。	当施設の居宅、包括との連携や他事業所との連携を図り、情報を共有するように心がけた。	在宅支援課会議で現状報告やデイサービスの30年度の取り組みを説明し助言をもらいながらよりよいサービスが提供でき、高齢者の皆さんのが在宅で元気に過ごすことができるよう支援していく。

1-3)高齢介護課 特別養護老人ホームしおさいの里(総括)

部門目標	利用者が心身ともに健康で充実した生活が送れるよう、職員が協力し合い、真摯に支援していきます。		
	重点目標	現 状	今 後
① 利用者の基本的人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく笑顔で生活できることを大切にしながら支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な生活という点では、危険予測不足・職員同士の声掛け不足が要因として見える事故があったが再発防止に努めた。 ・骨折、転落、外傷等の事故があり緊急受診もあった。 早期発見も大切だが、事故を未然に防止できるよう一人ひとりが声掛け合い、知識も技術も生かしたより良いサービス提供を心がけていく。 ・利用者自身が出来ることは行ってもらいうながら、その人らしい生活ができるよう支援を行った。難しい場面もあったが、今後も課題として取り組んで行く。 ・利用者、家族からの苦情2件あったが、早急に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から利用者自身のことだけでなく環境面においても危険予測を行っていく。 ・利用者自身が出来ることは行ってもらいうながら、その人らしい生活ができる支援は継続し、難しい場面に関しては、今後も課題として取り組んで行く。 ・利用者の想いに添って出来る限り対応できるよう、支援の方向性は職員間で周知徹底できるよう努めていく。 ・苦情は真摯に受け止め、今後に活かせる様必ず職員間で話し合い、再発防止に努めることは継続する。 ・楽しみややりがいについても探し、やりたい活動が実現できるよう検討し実施していく。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・そのひとらしく笑顔で過ごせる様、様々なクラブや行事活動を計画し、実行することができた。 ・体調不良者により高熱が出た際には移室や居室内隔離等で早期的且つ自主的に行うことで拡大防止に努めた。 また過度な対応にならないよう、看護師と連携し、適切に解除している。 ・インフルエンザ発症はあったが拡大することなく終息することができた。(2丁目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種連携しながら日々の様子を観察し、いつもと違う様子が見られた際は情報の共有を図り、早期対応ができるよう報告・連絡・相談を忘れず行っていく。 ・感染対応に関しても早期対応や、様子見ながら適切な対応は継続する。 ・職員が感染源とならないよう日頃からのスタンダードプリコーションは継続する。 	
②	<p>専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーションを大切にし、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都度対応が変わることがあるが、利用者対応や支援方法の統一を図るため、職員間のコミュニケーションを密に行うよう努めた。 ・委員会活動や係活動において、責任を持って役割を果たしている。 ・他丁目との連携や応援体制等継続できている。 ・意見を言いやすい職場環境作りにも継続して努める。 ・職員同士声掛け合いながら支援行っている。他職種とも相談し合いながら支援出来ている。 ・アドバイスや意見を伝えるよう意識し行つたが、相手側に余裕が無いと受け入れてもらえない事もあった。 ・専門職としての自覚を持って、風通しの良い職場環境になるよう今後も努力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の役割を再確認し、何をすべきかを考え常に振り返り行動する。 ・他丁目との連携も都度確認しながら行い、協力しながら業務遂行や利用者支援に不足無いよう確認し合うことを継続する。 ・朝の挨拶や声掛け等、職員間のコミュニケーションは個々に意識し継続する。 ・他職種との連携を忘れず実施することも意識し継続する。 ・偏った業務負担が生じない様協力し合うことを継続し、余裕が見られないようであれば気分転換できるような声掛けや、思いやりのある行動でチーム力を高めていく。 ・上司は部下の様子を見て、適切な場面において面談等試みる。
③	<p>地域に暮らす高齢者の活動の場としてボランティア活動の受け入れを継続します。ボランティアコーディネーターと連携しながら利用者が楽しみややりがいを持てる活動を取り入れ社会との結びつきの輪を広げていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種やボランティアの協力でクラブ活動が行え、良い表情を得られている。 ・地域のボランティアの方による催し物やクラブ活動で交流の機会を持つことが出来、楽しまれる姿が見られている。 その人らしく笑顔で過ごせるよう、様々なクラブ活動を行うことができた。 ボランティアの受け入れも積極的に行つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の楽しみややりがい、笑顔を絶やさない様な活動や工夫を継続していく。 ・地域のボランティアの方の協力を得ることを継続し、利用者の社会的な繋がりを絶やさない様、また利用者の望む活動も探しながら、できる限り応えていける様努めていく。

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アロマハンドマッサージには身体状況的に活動的な物に参加する機会の少ない利用者を中心に参加してもらい、香りを感じてもらったり手の緊張が緩和したりする効果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の活動を振り返り、沢山の利用者が参加できる活動を取り入れていくよう、ボランティアコーディネーターと連携していく。
④	クラブ活動や外出、お料理活動を通して、利用者の可能性を引出し、利用者同士の交流も深めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・月のレクリエーション企画でお菓子作りや工作等を利用者と一緒にを行い、利用者同士の交流も出来ている。 ・様々なクラブ活動を通して、地域のボランティアの方や利用者同士の交流ができた。活動中は、出来ることは自分で行ってもらえるよう支援した。 ・年度末にはボランティアの方達と慰労会が企画され、会食を楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動や各月の行事に各部署の職員が参加できるよう企画し、利用者と楽しむ機会を持つ。
⑤	一人ひとりが自身の資質向上のため、積極的な研修参加や自己研鑽に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加希望者には勤務の配慮を行った。また勤務状況を見て参加を促すことも行った。 ・研修参加の意欲にもバラつきがある。参加したことでの知識を深めたり情報交換ができたりといった成果は得られた。 ・相談職としては、研修には殆ど出席し、自己研鑽に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修案内を各部署に回覧し、参加の意欲や機会を高め、資質向上に努めていく。 ・各部署の目標を達成できるよう、参加を勧めたり、参加しやすくなるよう勤務調整を行う。

1-3-1)しおさいの里 2丁目○しおさいの里 2丁目 部門計画

部門目標	利用者が心身ともに健康で充実した生活が送れるよう、職員が協力し合い、真摯に支援していきます。		
重点目標	現 状	今 後	
⑥ 日々の生活支援の中で、感染症の予防・安全への配慮を行いながら、年間、月の行事・倶楽部活動を楽しんでもらえるよう努めます。利用者の個々のニーズにはできる限り応えていきます。	<p>個々の体調不良による別室での感染症対応を早期的且つ自主的に行うことができた。インフルエンザ発症1名あり。拡大せず終息。また車椅子からの転落事故あり。食堂に待機者がいない状況であった。時季毎に装飾を変え雰囲気作りに努めることができた。クラブ活動に置いては職員が直接かかわることができない状況は改善できていない。利用者個々の支援には担当職員が中心となりできる限り応</p>	<p>感染症予防においては日頃から状態を把握することに努め、体調不良時の変化に気付くことができるようにしておくことを目標とする。安全への配慮においても状態把握は同様で、その上で危険予測をしていくよう日々の業務の中でトレーニングしていくと共に、職員同士の声掛け合いも重要である。各活動には職員の参加も検討していく。企画・運営に携わる事で学ぶこともあります、利用</p>	

		えられるよう努めた。	者との関係作りも目標とする。
⑦	言葉の表現、トーン、対応の仕方等、不適切なケアに繋がらないよう職員全員で気を付け、ケアの向上に努めます。また職員の心身の健康にも配慮し、職場環境改善も進めていきます。	人権意識向上委員会・ケア向上委員会からの取り組み・評価を継続し、意識して援助できるよう努めている。不適切なケアは無かった。早出や残業依頼は改善出来ているが、他丁目の応援協力は継続的に有る。	不適切なケアは起きていないが安心せずに、日々の取り組みの評価と共に、自身の援助の振り返りも行って行く。丁目内で話し合い残業が発生しない様協力し合う。職員同士のコミュニケーションの活性化、団結して乗り切っていけるチーム力をつけて行く。

1-3-2)しおさいの里 3丁目 ○しおさいの里 3丁目 部門計画

部門目標	利用者、職員共に笑顔で安心・安全な援助の提供を行います。		
	重点目標	現 状	今 後
①	利用者が自分らしく笑顔で生活を送れるよう、思いに添った安心・安全なサービスを提供します。	利用者の訴えを聞き、安心して過ごせるように他職種と相談し合って行った。事故報告も挙がったが、未然に防止する努力や事故後の方針に沿って再発防止に努めた。	事故だけではなく、安全な生活環境作りや職員の対応統一等、安心して生活できるよう技術向上にも努める。
②	職員のコミュニケーションを大切にし、相談しやすく働きやすい環境作りに努め、より良いサービス提供を目指します。	職員間のコミュニケーションは取っているが、お互いの対応方法、利用者のこと、自身の悩み等話し合うことが少なかった。	お互いの技術向上のため、利用者のより良いサービス提供のための悩み等相談しやすく、仕事がしやすい環境作りが必要と思われる。

1-3-3)しおさいの里 6丁目 ○しおさいの里 6丁目 部門計画

部門目標	利用者にとって居心地の良い場所、職員にとって働きやすい環境作りに努めます。		
	重点目標	現 状	今 後
①	不適切ケアに繋がらないよう、業務体制を工夫しながら、職員心にゆとりを待ち支援します。	欠員状態の中で業務を日々行っている状況であった。出勤者同士で話し合いながら援助行ってきた。職員心にゆとりを持つまでは至らなかった。	休日出勤や長時間の残業も多く、ゆとり無い状態が継続しているため体制を整える必要がある。
②	それぞれ委員会活動、係活動において役割を再認識し、責任感を持ち業務します。	各委員会、係活動においては各自が責任を持ち発信している。	継続して取り組んで行く。
③	風通しの良い働きやすい職場環境を目指し、職員同士コミュニケーションを図り、報	ゆとりが無い中でも職員間声掛け合いながら実施できている。他職種間でも報告・連絡・相談を図っている。	人員不足の中でも連携を忘れず、今後も風通しの良い環境作りに努めて行く。

	告・連絡・相談を図ります。		
④	利用者とのコミュニケーションや日々の支援の中で、その人らしく生活できるよう楽しみややりがいが持てる活動を探り、活動を通して利用者の可能性を引き出しています。	日々コミュニケーションの中で楽しみややりがいが持てる活動を探ろうとするも業務に追われてたり、活動に発展しないこともあったが、他職種やボランティアの協力で外出やクラブ活動が行え、良い表情を引き出せている。	今後も日々のコミュニケーションの中で探っていく。また体制を整えて活動の場を広げられるよう工夫していく。

1-3-4)しおさいの里 7丁目○しおさいの里 7丁目 部門計画

部門目標	利用者一人ひとりが安心・安全な生活をしっかりと送れるよう支援します。		
重点目標		現 状	今 後
①	職員間の連携を密にし、介護事故を起こさない、起こらないよう努めます。	職員間で話し合いを行うも結論が出ない時もあり、統一した対応が取れないこともあった。	職員間で話し合ったことは速やかに職員間で周知できるようする。また担当の判断でも行えるよう周知する。
③	衛生面に十分配慮し、感染症や風邪の拡大防止に努めます。	年間を通して感染症や風邪の拡大無く、衛生面に配慮できた。	現状の対応を今後もしっかりと行う。食器洗浄機も十分に活用する。

1-3-5)しおさいの里 5丁目○しおさいの里 5丁目 部門計画

部門目標	何度も利用していただけるよう心のこもったサービスの提供に努めます。		
重点目標		現 状	今 後
①	利用者や家族の意向を汲み取り、人権を尊重し気持ちに寄り添った対応をおこないます。	利用者や家族の意向や思いに添えるような対応を心がけたが、不十分な点もあった。職員体制の充実に欠け、心のゆとりが持てない時があった。利用者の訴えに直ぐ対応するよう職員間の連携に努めた。	要望に応えられるよう話を傾聴し、職員間で協力し合いコミュニケーションを図り、気持ち良く安心して過ごせるよう寄り添った対応に努めていく。
②	楽しみのある生活が送れるようクラブ活動やお料理活動を行い、やりがいを持ち笑顔で過ごせるよう支援します。	月のレクリエーション企画でお菓子作りの他に工作等参加してもらい楽しんでもらえた。たとみ物等の軽作業等できることを行ってもらうことでやりがいを感じて頂いている。	人員が少ない中、様々な企画を考え提供している。来年度は職員状況も整いつつあり、やりがいがもてるような活動計画を増やしていきたい。
③	特養の空きベッドも活用し、利用率アップに繋げ、毎月の利用延べ人数 330 人を目指します。	1~3月はインフルエンザの影響でキャンセルや緊急退所が続き目標値には達成できなかったが他は特養の空きベッドを活用し	新規利用者獲得のため営業活動や広報活動を行い、特養の空きベッドも他職種で協力し合いかながら積極的に受け入れて

		利用延べ人数 330 人以上の月が多かった。29 年度は延べ人数平均 339.7 人の利用があり 64 床の特養の空きベッドを利用した。	いき、毎月の利用延べ人数 340 人を目指す。
--	--	--	-------------------------

1-3-6)看護○看護 部門計画

部門目標	安全に生活できるサービス提供のため努めていく。		
重点目標	現 状	今 後	
① 薬の管理 限られたスタッフ数で安全に管理、提供できるように努めていく。 薬セット事故ゼロの継続。	職員採用 3 名 療養休暇 1 名。スタッフ状況変化あったが薬セット事故 0 達成。ヒヤリミスを毎日挙げていることで事故防止ができた。	ヒヤリ前ミスの確認で事故防止に繋げて行く。	
② 医療機器の管理 必要時安全に使用できるようにしていく。 年 3 回定期点検の実施。	4 月、8 月、12 月に定期点検実施した。自動血圧計のマジックテープが効かなくなり 9 台交換した。定期点検実施で 1 年間安全に使用することが出来た。	年 3 回の定期点検は継続。30 年度は古い吸引器 7 台の買い替え予定。(モーター音が大きい・吸引圧が上がりにくい)	
③ 利用者や家人の気持ちに寄り添ったケア 意向確認票の活用状況（平成 29 年 1 月～）の評価。	新入所のご家族から意向確認票を記入してもらい、状態変化時には参考にして対応を進めることが出来た。相談職と意見交換し、課題も見えて来た。	寄り添ったケアに努めるよう、課題に取り組んで行く。	
④ 処置物品の管理 効率良く清潔に行えるよう に進めていく。	尿管留置カテーテルを留めるテープを変更し効率化に繋げた。	在庫のパーミロールが少なくなったら新しい傷パットに移行する。	

1-3-7)機能訓練○機能訓練 部門計画

部門目標	利用者の思いを汲み取り、他職種との連携を図って援助を行って行きます。		
重点目標	現 状	今 後	
① 専門職としての視点から、利用者様の能力や可能性を念頭に置き、安全な生活環境や充実した生活を送るよう、支援に努めます。	専門職としての自覚を持ち行えた。座位や乗り移り方法等現場と協力し検討しながら都度環境整備に努めた。	引き続き現状維持だけではなく、より良い生活状態を目指して行く。	
② 引き続き地域貢献活動（だんだん広場等）を通して、地域住民の健康管理に努めます。	引き続き行えている。	次年度も継続して取り組んで行く。	

1-3-8)相談支援○相談支援 部門計画

部門目標	利用者、職員共に笑顔で、安心して楽しみのある生活が送れるよう心や思いに寄り添ったサービスの充実を目指します。	
重点目標	現 状	今 後
利用者が楽しみややりがいを持てるようにボランティアを積極的に受け入れ、様々な活動を行い、その人らしく笑顔で生活が送れるように支援します。	様々な活動を行い、利用者やボランティアの方の楽しみの機会となっている。「待ち遠しい」との声も聞かれている。ボランティアは積極的に受け入れ増員することができたが、受け入れ体制が整っていなかったため、改善が必要である。	ボランティアの方の気持ちに立って、活動に慣れるまでのフォローをしっかりと行う。又、利用者が今以上に自分らしく楽しみややりがい持てるよう、他職種からも何をしてもらいたいか聞き取りを行い、ボランティアの方も職員も負担無く互いにプラスになる受入れができるよう、コーディネーターとしての役割を意識し支援する。

1-4)障害支援課 さいはま園

部門目標：コミュニティの拠点としての施設を目指します。		
重点目標	現状	今後
①利用者の「自分でできる」という思いを大切にした自立支援と、「なりたい自分」を目指す自己実現を支援し、QOLの向上を目指します。	利用者の「思い」や「できる」を大切にしながら、6か月ごとの面談（毎月4名ほどの面談）でプラン作成をしている。内容は、利用者やご家族の意向を十分に反映し、本人出席のカンファレンスで同意を得ている。	次年度は、ご家族様もカンファレンスに同席できるよう案内を送付し、利用者の生活設計を直接聞いて頂く機会を設ける。また、共に支える支援者として、施設との協働体制を構築していく。
②重度の障害がある方のコミュニティの拠点施設として、行政や相談支援事業所と連携を図り、受け入れ体制を整えます。	S Sについて、今年度、医療対応重度者の受け入れを行い、現在は定期的な利用あり。また、11月から新規利用者（主に知的障害者）の方の受け入れを試み、定期利用につながっている。	関係機関と連携を取り、S Sでは新規利用者が増加中。継続利用して頂けるよう努める。さらに30年度の報酬改定では、体制が整っているとし、福祉型強化医療サービス費を算定することになった。引き続き、医療体制を見直していく。
③地域の暮らしを支える短期入所は、円滑な受け入れ体制を整備し、緊急時や避難的な利用など、個々の環境に応える施設を目指します。		
④全国身体障害者施設協議会（新潟県身体障害者施設協議会）の一員として、障害者福祉に貢献し、介護知識や技術の向上に努めます。	29年度も全国大会に出場し、長年の感染症についての取り組みを発表した。平成25年から複数回の発表にて、当園の成果があがっているといえる。	異動職員も増え、職員教育や支援体制を整えるため、次年度は、支援を見直し、新たな取り組みを実施していく。全国大会等への参加は、再来年度への検討とする。

⑤夕映えの郷との連携により、コミュニティの多種多様な障害者の実情を把握し、障害支援の専門性を生かした体制を構築します。	今期は双方の施設の状態（感染症等）から、様々な開催ができなかった。また、当園の介護外業務を夕映えの就労につなげる件では、現時点では委託する業務内容と時間を精査し、夕映えの郷に打診中。	夕映えの郷の買い物代行業が、当園の業務改善の一助となっているが、夕映えの郷の事業変更に伴い、体制の見直しなどの依頼あり。今後の体制については、再検討を行う必要性あり。
⑥職員同士が相談しやすい環境で「協議（目的を合わせる）・協力（力を合わせる）・協調（心を合わせる）」の働きやすい職場を作ります。	話しやすい職場を「コミュニケーション重視」で機能させ「迷う・悩む」より、「相談・共有」することを目指している。	会議内で協議（目的合わせ）し、協調（心合わせ）で、常に協力（力合わせ）を確認している。今後も決定事項等は早急に判断し、課題は早急に解決するよう情報共有や話し合いに努めいく。

1-4-1)障害者支援施設(生活介護・施設入所支援)

部門目標：「ひとりのニーズに機能する施設」を目指します。		
重点目標	現状	今後
①全国身体障害者施設協議会が推奨する「ケアガイドライン」を用いて、個別支援と自己実現を叶える体制づくりに努めます。	ケアガイドラインを人権意識向上委員会の取り組みとして実行したが定着せず。方向性を精査した結果、ガイドライン受講スタッフが1名しかおらず、十分に進めることができなかつたため、次年度に持ち越すこととした。	ケアガイドラインについては、全国身体障害者施設協議会の方向性に合わせていくこととし、次年度の学習会に出席させることとした。多くの職員に全身協の取り組みを直接学習させながら、当施設で取り込むこととする。
②入所者の重度化が顕著となり、高齢化と障害の重複化により、医療機関と連携が不可欠であり、さらなる健康管理に努めます。	入院者が増え、退院後は状態変化が著しい利用者が増加している。また、入院リスクは依然高い。 今期入院日数 H30 1~3月 116日(3名) H29 " 110日(5名) 年度毎入院日数 29年度 388日(8名) 28年度 224日(8名)	体調異変の早期対応を心がけていても重症化・悪化する方が増えている。年度内では肺炎が多く、イレウス・重積発作・骨折などあり。予想のつかないものも多いが、できるだけ早期に医療機関につなげるよう努める。
③利用者の要望や苦情、相談ごとに真摯に向き合い、人権意識向上委員会の3原則を遵守し人権を尊重します。	1月に苦情1件発生。利用者が特定スタッフから叩かれたとの訴えあり。利用者の証言と、状況から、調査の結果、そのような事実はないと判断した。発言の要因は、日常の介助方法から利用者の勘違いと自己能力の過大評価とわかった。現状を精査し、関係性の	苦情については、複数回の事情調査と、利用者からの訴えを傾聴した。さらに具体的な詳細についても細部に渡り調査した。利用者には調査報告を行い、ご家族様からも理解を得たが、今後、このような行き違いや苦情が起こらないよう十分に説明する。

	修復と全般的な支援方法の確認等、新たな支援の構築を行った。また、ご家族様への説明と行政の報告も実施した。	スタッフ間でも会議内で、接遇や支援方法について検討をおこなった。今後も利用者の訴えには真摯に取り組み、スタッフ間での情報共有を行い、よりよい支援につなげていく。
④夕映えの郷と合同行事を企画し、利用者間の交流を通して、個々の生活の幅や可能性を広げる支援を行います。	合同行事は双方の感染症流行もあり、行事を中止した。そのため、活動実績なく会議は開催せず。	次年度は、年間開催行事を早々に決定し、連携強化を図る。
⑤記録のPC化、移乗支援用具の導入を達成し、より一層の効率化と業務軽減を図り、働きやすい職場を目指します。	PC化により使用幅の広がりや効率化も図られている。1年経過後の評価では、業務軽減や効率化が顕著であった。移乗用具はボードを追加し、使い捨てエプロン等を寄付品にて補充し、非常時や繁忙期は業務軽減につながった。	今後もPCマニュアルの見直しと、完全移行を目指していく。業務軽減では、将来的にナースコールと記録の連動や見守りシステムの構築、移乗支援用具のさらなる向上、3大介護を補助具などで軽減するよう検討する。

1-4-2)短期入所(ショートステイ)

部門目標：コミュニティ拠点としての施設を目指します。		
重点目標	現状	今後
①緊急時や災害時の福祉避難所として機能し、円滑な受け入れ対応を目指します。	福祉避難所としての役割を担うよう市役所に申し出済み。今年度の名簿と支援物資の受け入れを行った。	名簿掲載者で、当園の利用がない方については、急な避難時の対応に備え、利用を働きかけたが、利用不要との回答あり。今後も継続して必要性も含め、働きかけていく。
②重度な障害をお持ちの方に対応し、「介護職員による医療行為」体制を整備します。	医療行為を要する方の受け入れ継続中。現状では、利用者のニーズと施設の体制をマッチングさせ、利用に至っている。	さまざまな医療ニーズに対し、現状の体制では難しい案件もあるが、次年度では、医療行為を要する方について加算等の評価につながったため、今後もさらに医療提供体制を整える。
③レスパイト機能だけでなく、将来の施設生活に安心感が持てるよう、入所待機の場としても機能します。	新規利用者の定期利用が徐々に増加している。 利用率 H30 1~3月 83% H29 " 62%	相談支援事業所や、行政に地域のニーズを確認していく。
④夕映えの郷との連携により、地域の障害者を把握し、障害特有のニーズに応えられる「暮らしを支える施設」として制度の狭間を支援します。	夕映えの郷と介護外業務等も含め、連携できるよう検討中。必要時には地域の障害者について情報交換を行っている。	連携により、利用につながる事例はなかったが、業務提携や、メンバーの状態をとらえながら、当園との融合を図っていく。

1-5)管理課

(1) 部門目標：利用者、職員が共に「安心」を実感し、「喜び」を引き出せるサービスを目指します。「効率的な経営」に努めます。

重点目標	現状	今後
①施設を利用される方々が、安心・安全に生活ができるようサービス向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食業務では、衛生管理を徹底し食中毒等の予防に努めた。 ・宿直、保安業務では、保守点検業務の見直しを行い安心と安全な生活ができるよう心がけ業務を行った。 ・清掃業務では、急な依頼にも迅速に対応し清潔に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、安心・安全を心がけサービス向上に努める。 ・安全の為に定期的に保守保安点検を継続する。 ・安心して生活できるよう清潔の保持に努める。
②利用者に寄り添う、食事提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房部門においては、食事に関するアンケートを実施し利用者の希望に応える食事提供に努めている。また選択メニューや郷土食を取り入れている。 ・現場の意見を取り入れ、調理の改善を行う等、利用者に寄り添う食事作りに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや調査を定期的に行い、利用者に寄り添う食事作りに努める。 ・定期的に行う厨房会議と給食運営会議を活用し現場の意見を取り入れる。
③安定的・発展的な事業経営ができるよう、業務の改善に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・新電力導入について見直し、電力の部分供給から全面供給ができる業者に変更しコスト削減に努めた。更に年間約 65 万の効果が見込まれる。(新電力部分供給時、年間約 25 万円の削減見込み) ・節水装置導入からコスト削減の検証と光熱水費の報告を定期的に行っていている。 ・寝具類の入札を実施したこと、年間削減額は約 315 万円となる見込み。 (697 万→382 万) ・インターネットバンキングを導入し、振込手数料の削減につなげた。 上半期(導入前)約 26.1 万→下半期(導入後)約 13.6 万 ・効率的な経営に努めるよう備品や消耗品の見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に、比較や検証を行いコスト削減に努める。
④職員、法人組織間の連携を通して効率・効果的な経営に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務では他職種からの伝達事項等を迅速に共有し、円滑に対応している。 ・食中毒研修、口腔ケア研修会を行い 	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種との連携を密にし、円滑な対応を行う。

	<p>他職種と連携、サービス向上に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務管理、法人規則の変更に関する情報について本部、管理職間で共通の認識を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催で職員間で知識を共有し効果的な経営に努める。 ・今後も制度の改定等に迅速に対応するよう本部や法人間と連携を行う。
⑤職員一人ひとりが生き生きと働けるよう職場の活性化に向けて、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康管理について、メンタルヘルス研修を定期的に実施（5月）し心の健康づくりに努めている。また、職員健診実施に際し産業医の意見・指示を的確に把握出来るよう業務改善を行った。 ・7月と11月に職場環境チェックを職域毎に行い、管理職間で情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も年1回、メンタルヘルスに関する研修会を行い、職員の心の健康づくりに努める。 ・年2回程度と定期的に職域毎に安全衛生チェックを実施し、安全に働く環境づくりに努める。

1-5-1)管理課 廉房

部門目標：「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。

重点目標	現状	今後
①他職種との連絡調整を密にし、工夫や配慮を加え、心のこもった食事提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ムース食のアンケートを実施、要望の多かった魚の形を採用し硬さの調整を行った。 ・嗜好調査を実施。 ・肉が硬いとの指摘からスライスの仕方を薄くするよう業者と調整。 ・ミキサー粥がぬるいと言う意見を聞き、配膳車の温度を調査し、センサーを正常に働かせる事で改善。 ・ごくキザミ食の方から絹豆腐なら細かくしなくても食べられるという意見があがり、給食会議で検討し改善した。 ・畑はたクラブが中庭で栽培した大根を厨房で調理して提供。 ・チームコンペクションオープンのレシピをUSBで入力・登録し、調理員の作業の効率化をはかり、メニューの幅も拡げる。 ・チームコンペクションオープンの研修会に2名参加できた。 ・食中毒研修、口腔ケア研修会を行い、 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからもアンケートの実施、嗜好品調査を定期的（年1回）に行う。また、調査の結果も反映しながら、心のこもった食事提供に努めていく。 ・これからも他職種と連絡を取り合い、又嗜好調査の結果も反映しながら、心のこもった食事提供に努めていく。 ・内部研修や外部研修の参加を通して、業務の改善や工夫を行っていく。

	いつまでも自分の歯で食べることの大切さを職員と学んだ。	
②選択メニューや郷土食など楽しみにしていただける様な食事を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> ・あごすけ様のラーメンボラに協力。 ・選択メニューや郷土食を提供することができた。 ・利用者から新しいブランド米の新之助の要望あり 11月の夕食時提供。 ・上越の季節の食べ物である川渡り餅を提供。 ・テイクアウトで魚米の寿司を提供した（1月） ・利用者が選びやすいよう選択メニューのチラシの写真部分を拡大。 ・郷土食でカニのみぞ汁を出す（カニの半身を入れ、大変喜ばれた。） ・お彼岸にぼた餅を提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き楽しみにして頂ける様な食事提供を心がけていく。
③衛生管理を徹底し食中毒を予防します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミバケツ等備品入替実施。 ・フッ素加工のしてあるホテルパンの薄型を購入し、クリッキングペーパーの使用量の削減と汚れ落ちが良い為洗剤や水の使用量削減ができた。 ・メラミン食器が傷つかずに汚れを落とすスポンジを採用。 ・調理員のケガを未然に防ぐ為に、高い所にあるゆがんだ換気扇の器具（グリスフィルター）を交換した。 ・トロミ剤が食器に付着していることが度々あり、注意喚起するとともに、トロミ剤の種類の検討も行った。 ・ご飯茶碗のご飯粒付着をなくすために、盛りつけ前にご飯茶碗を一つずつ確認することにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノロウイルスや感染性胃腸炎の流行時期になるが、衛生管理をしっかりと行い食中毒を予防していく。 ・安全安心な食事提供が継続できるよう、心がけていく。

1-5-2)管理課 事務

部門目標： 業務改善を常に念頭に置き、効率的な経営に努めます。

重点目標	現状	今後
① 光熱水費、経費等のコスト削減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・新電力の見直しにより新電力部分供給から全面供給に変更したことで更に年間約 65 万の効果が見込まれる。 (新電力部分供給時、年間約 25 万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き効果の検証を行い、契約内容の見直し等定期的に行う。

	<p>の削減見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水について 2月節水装置メンテナンス後効果の検証実施 29年度 11月迄8ヶ月間で装置導入前比約60万円効果がでた。 ・寝具類の入札を実施したこと、年間削減額は約315万円となる見込み。(697万→382万) ・光熱水費の節約に努めるよう、定期的に使用料の報告を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に、比較や検証を行いコスト削減に努める。
②情報を共有し、円滑な外部対応を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種からの伝達事項等を事務所内で迅速に共有し、円滑に対応できるよう心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、他職種とも連携を取り、情報共有に努める。
③労務管理において情報の共通管理を進め、効率化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・労務管理情報について共通データ内で閲覧・管理できるよう整えた。 ・有期雇用契約の「無期転換」について法人全体の管理職間で認識を図っている。 ・本部と連携をとり「給与規則」「就業規則」「育児・介護規則」の見直しを行った。 ・介護休業法の改正について、法人管理職で情報共有を行い、規程の見直しについて提言した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通データ内で閲覧・管理をおこなう。 ・情報を迅速に共有できるよう活用していく。 ・法人本部による規程の改正
④経理業務において、新たな会計ソフトと監査の導入により、正確で効率的な業務を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな会計ソフトの導入に伴い、従来とは仕訳内容が異なる点も生じたが、早急に習得するよう努めた。 ・会計事務所からの的確なアドバイスを受け、正確な処理を行うことが出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務所とも連携を密にし、知識の収集と習得に努める。
⑤他職種の業務を支える職場環境と組織づくりを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・経理・労務・給与等における専門知識を生かし、他職種が安心して業務に集中できるよう情報提供に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もそれぞれの専門職が生き生きと働くような環境作りを心がける。
⑥法人間で経理業務や経費削減を効率効果的に行うよう努めます	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新たな会計ソフトを使用し、法人間で連携を密に情報共有することで、日常の会計業務、月次の資料作成等を効率的に行うよう努めた。 ・経費・給与等の振込についてインタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も法人間で情報交換を行い、経費等の削減効果をあげる。

	<p>一ネットバンキングを導入し、振込手数料の削減につなげた。また、振込データ作成において CSV フォーマットを活用し、ミスを未然に防いで効率的に業務を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットバンキング導入による振込手数料削減。上半期(導入前)約 26.1 万→下半期(導入後)約 13.6 万 ・新電力について、法人全体で光熱費の見直し効果が上がるよう、法人間で情報共有を行った。 	
--	--	--

1-5-3) 管理課 保安、宿直、清掃

部門目標：利用者が安心、安全、快適に施設を利用できるよう各職種間と連携を取りながら効率、効果的な業務に努めます。

重点目標	現状	今後
①整理・整頓を心がけ効率的な業務を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・機械室、車庫の備品等の整理を行い修理不能品等の廃棄を行った。 ・蛍光管等消耗品の在庫管理が出来るよう備品棚の整理を行った。 	備品等の置き場について整理整頓を今後も継続する。
②安全、安心、清潔を心がけサービス向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・車輛保守管理で車輛管理表を作成しオイル交換時期を正確に把握できている。 ・宿直、保安、清掃業務ではご利用者や職員が安心して生活、勤務できるよう各職種間と連携をとりながら迅速な対応に努めている。 ・保全業務において、月次点検の見直しを行い月次点検表を改善。 ・保全業務において、年次保守点検表を作成している。 ・施設全体の電気錠の点検を行い修理実施。 ・施設全体の換気扇点検を行い、修理箇所を洗い出し修繕実施。 ・施設老朽化による水回り等壁紙の張替実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車輛管理表を作成しオイル交換時期を適正に把握する。 ・今後も、安心・安全を心がけサービス向上に努める。 ・安心して生活できるよう清潔の保持に努める。 ・安全の為に定期的に保守保安点検を継続する。 ・職種間と連携をとり、迅速な修繕対応に努める。 ・次年度の修繕計画を立てるため、早めに修繕箇所の洗い出しを行う。

平成29年度事業別利用実績

1. 高齢福祉部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	要介護1	90	93	90	93	93	71	84	90	93	93	84	124	1,098
	要介護2	360	403	390	372	372	360	372	330	372	371	336	341	4,379
	要介護3	690	624	600	674	629	634	684	705	726	713	618	708	8,005
	要介護4	826	870	920	959	954	860	858	822	744	765	719	790	10,087
	要介護5	1,115	1,164	1,041	1,086	1,074	1,038	1,116	1,070	1,204	1,246	1,120	1,201	13,475
実人数	合計	3,081	3,154	3,041	3,184	3,122	2,963	3,114	3,017	3,139	3,188	2,877	3,164	37,044
	要介護1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	37	
	要介護2	12	13	13	12	12	12	12	11	12	12	12	11	144
	要介護3	23	21	20	22	21	22	23	24	24	23	23	23	269
	要介護4	28	29	31	31	32	30	28	28	24	25	26	26	338
	要介護5	38	39	36	36	35	36	36	37	40	41	40	39	453
運営日数	合計	104	105	103	104	103	103	102	103	103	104	104	103	1,241
	30	31	30	31	31	30	31	30	30	31	31	28	31	365
	利用率(%)	98.8	97.8	97.5	98.8	96.8	95.0	96.6	96.7	97.4	98.9	98.8	98.1	97.6
平均要介護度	3.82	3.83	3.80	3.81	3.81	3.82	3.82	3.81	3.83	3.85	3.85	3.82	3.82	3.82

<通所介護・総合事業:ディサービスセンターゆりかご荘>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	チェックリスト	37	35	35	42	42	44	41	57	57	52	53	65	560
	要支援1	32	38	38	34	32	39	38	37	35	36	24	35	418
	要支援2	32	29	23	35	29	38	38	32	36	33	42	47	414
	要介護1	111	124	110	107	133	128	126	119	126	135	89	116	1,424
	要介護2	241	250	224	246	238	262	258	265	267	210	180	220	2,861
実人数	要介護3	103	116	86	107	96	91	76	68	65	68	87	92	1,055
	要介護4	73	77	68	82	66	65	62	63	59	64	60	57	796
	要介護5	23	28	26	29	55	41	47	48	48	36	39	47	467
	合計	652	697	610	682	691	708	686	689	693	634	574	679	7,995
	チェックリスト	6	6	6	6	7	7	6	8	9	9	10	10	90
運営日数	要支援1	6	6	6	6	7	6	6	6	7	7	6	6	75
	要支援2	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	6	7	62
	要介護1	13	13	13	13	16	16	15	15	14	15	14	15	172
	要介護2	24	22	22	21	22	24	24	23	25	22	19	21	269
	要介護3	11	11	9	10	9	8	8	8	7	7	8	8	104
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	要介護4	8	8	8	9	8	8	9	7	7	7	7	7	93
	要介護5	3	3	3	3	5	4	4	4	4	4	4	4	45
	合計	76	74	71	73	79	78	77	76	78	76	74	78	910
	運営日数	25	27	26	26	27	26	26	26	26	27	24	27	313
	利用率(%)	70.5	69.8	63.4	70.9	69.2	73.6	71.3	71.6	72.0	63.5	64.6	68.0	69.0
平均要介護度	2.08	2.10	2.06	2.11	2.14	2.04	2.05	2.02	1.99	1.96	2.08	2.00	2.05	2.21

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	要支援1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
	要支援2	3	0	0	0	0	3	0	5	0	0	0	4	15
	要介護1	62	48	47	52	31	32	26	44	66	55	36	42	541
	要介護2	58	65	86	80	153	108	132	122	119	106	100	115	1,244
	要介護3	110	92	56	56	57	53	59	57	61	66	50	42	759
実人数	要介護4	87	105	108	131	96	131	125	91	78	86	97	107	1,242
	要介護5	26	32	28	25	26	29	30	27	18	11	8	11	271
	合計	346	342	325	344	363	356	372	351	342	324	291	321	4,077
	要支援1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	要支援2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	5
運営日数	要介護1	10	8	7	9	8	8	6	7	9	7	6	6	91
	要介護2	12	12	14	13	15	13	19	17	15	15	12	13	170
	要介護3	11	10	8	9	7	7	6	5	5	6	5	5	86
	要介護4	8	8	8	9	8	8	8	8	5	5	6	5	86
	要介護5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	42
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	合計	46	42	41	44	42	41	44	44	38	34	32	33	481
	利用率(%)	96.1	91.9	90.3	92.5	97.6	98.9	100.0	97.5	91.9	87.1	86.6	86.3	93.1
平均要介護度	2.86	3.02	2.95	2.99	2.82	3.03	3.00	2.75	2.60	2.67	2.80	2.76	2.86	2.86

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算 2.87

<居宅介護支援:しおさいの里居宅介護支援事業所>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
チェックリスト	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	4	20
要支援1	4	4	4	4	4	2	2	2	1	2	2	5	36
要支援2	8	7	6	7	7	8	7	7	7	8	10	13	95
要介護1	35	34	32	31	30	32	33	32	30	33	30	34	386
要介護2	29	24	24	30	27	27	29	29	29	28	28	26	330
要介護3	19	20	20	20	20	18	20	19	17	16	14	16	219
要介護4	15	15	14	16	13	12	16	11	9	10	9	10	150
要介護5	1	1	3	2	2	4	2	2	2	2	5	3	29
合計	113	107	105	112	105	104	110	103	96	100	99	111	1,265

平均要介護度 1.99 2.01 2.08 2.08 2.04 2.08 2.12 2.03 2.00 1.96 2.02 1.84 2.02

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算 (前年度2.08)

<介護予防支援:地域包括支援センターうのはな苑>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
チェックリスト	22	22	21	21	22	24	23	26	27	27	25	17	277
要支援1	22	22	22	20	20	19	19	18	19	18	20	17	236
要支援2	36	34	34	33	32	32	32	34	33	32	31	28	391
合計	80	78	77	74	74	75	74	78	79	77	76	62	904

平均要介護度 0.55 0.54 0.55 0.55 0.53 0.52 0.53 0.52 0.51 0.50 0.51 0.55 0.53

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算 (前年度 0.53)

2. 障害支援部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	区分4	22	23	22	23	23	22	23	23	23	20	23	269
	区分5	66	69	56	52	69	88	92	88	111	115	100	92
	区分6	339	368	352	366	341	330	306	308	319	322	235	3,908
	合計	428	464	432	441	433	440	421	418	453	460	355	437
実人数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分5	3	3	3	3	3	4	4	4	5	5	5	46
	区分6	16	16	16	16	16	15	15	14	14	14	12	179
	合計	21	21	21	20	20	20	19	20	20	18	20	240
	運営日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	269
	利用率(%)	97.3	100.9	98.2	95.9	94.1	100.0	91.5	95.0	98.5	100.0	88.8	95.0
	平均障害程度区分	5.74	5.73	5.75	5.78	5.73	5.70	5.67	5.68	5.65	5.65	5.61	5.68
													5.70

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分3以上	565	615	582	585	569	597	563	570	597	614	491	581
	運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
	利用率(%)	94.2	99.2	97.0	94.4	91.8	99.5	90.8	95.0	96.3	99.0	87.7	93.7

<障害者支援施設さいはま園:短期入所>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	16	18	14	0	0	0	0	0	0	0	0	48
	区分4	0	0	0	23	23	25	23	28	31	37	37	263
	区分5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	区分6	20	28	20	25	26	17	16	21	18	14	15	10
	区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	42	46	34	48	49	42	39	49	49	51	52	547
実人数	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	区分4	0	0	0	1	1	1	1	2	4	4	4	21
	区分5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	区分6	3	5	3	4	3	3	3	4	3	2	2	38
	区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	5	6	4	5	4	4	4	6	7	6	6	63
	運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	障害者	1.4	1.5	1.1	1.5	1.6	1.4	1.3	1.6	1.6	1.6	1.9	1.5
	障害児	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	1.4	1.5	1.1	1.5	1.6	1.4	1.3	1.6	1.6	1.6	1.9	1.5
利用率(%)	70.0	74.2	56.7	77.4	79.0	70.0	62.9	81.7	79.0	82.3	92.9	74.2	74.9
平均障害程度区分	4.71	4.83	4.76	5.04	5.06	4.81	4.82	4.86	4.73	4.55	4.58	4.43	4.76
(障害児除く)													

年度別利用率の推移(過去10年間)

1. 高齢部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里> 定員:104人

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365
延べ利用者数(人)	34,829	34,397	35,491	34,745	34,987	35,060	35,599	36,671	36,601	37,044
1日平均利用者数(人)	95.4	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	100.2	100.2	101.5
利用率(%)	95.4	94.2	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	97.6	96.4	97.6
平均要介護度	4.02	4.12	4.11	4.12	3.94	3.86	3.72	3.69	3.75	3.82

* 平成27年8月1日より100人から104人に定員変更

<(介護予防)通所介護:デイサービスセンターゆりかご荘> 定員:37人

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)	313	313	313	314	311	313	313	314	313	313
延べ利用者数(人)	7,448	7,073	7,330	7,650	6,628	6,577	6,444	7,380	8,232	7,995
1日平均利用者数(人)	23.8	22.6	23.4	24.4	21.3	21	20.5	23.5	26.3	25.5
利用率(%)	79.3	75.3	78	81.2	71	70	68.6	78.3	71.1	69
平均要介護度	2.94	2.85	2.45	2.29	2.56	2.7	2.36	2.35	2.23	2.21
	-	-	2.2	2.13	2.42	2.54	2.14	2.11	2.09	2.05

* 平成28年4月1日より30人から37人に定員変更

* 平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ> 定員:12人

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365
延べ利用者数(人)	4,423	4,115	4,073	4,326	4,682	4,572	4,934	4,173	4,018	4,077
1日平均利用者数(人)	12.1	11.2	11.1	11.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11	11.2
利用率(%)	86.6	80.5	79.6	84.4	91.6	89.5	84.5	85.6	91.7	93.1
平均要介護度	3.19	3.12	2.83	2.81	3.14	3.3	3.1	2.98	2.83	2.87
	-	-	2.81	2.8	3.12	3.28	3.08	2.93	2.81	2.86

* 平成26年4月1日より14人から16人に定員変更

* 平成27年8月1日より16人から12人に定員変更

* 平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

2. 障害部門

<身体障害者療護施設さいはま園:入所> 定員:20人 * H23. 3. 31廃止

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度
運営日数(日)	365	365	365
延べ利用者数(人)	7,023	7,070	7,083
1日平均利用者数(人)	19.2	19.3	19.4
利用率(%)	96	96.5	97

<障害者支援施設さいはま園:生活介護> 定員:20人 * H23. 4. 1開始

			平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)			270	269	269	269	270	269	269
延べ利用者数(人)			5,312	5,309	5,166	5,212	5,381	5,303	5,182
1日平均利用者数(人)			19.6	19.7	19.2	19.3	19.9	19.7	19.2
利用率(%)			98.4	98.7	96	96.9	99.6	98.6	96.3

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援> 定員:20人 * H23. 4. 1開始

			平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)			366	365	365	365	366	365	365
延べ利用者数(人)			7,117	7,125	6,908	6,916	7,128	7,033	6,929
1日平均利用者数(人)			19.4	19.5	18.9	18.9	19.4	19.2	18.9
利用率(%)			97.2	97.6	94.6	94.7	97.4	96.3	94.9

<短期入所:さいはま園ショートステイ> 定員:2人

	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度
運営日数(日)	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365
延べ利用者数(人)	635	540	603	615	428	500	643	667	561	547
1日平均利用者数(人)	1.7	1.5	1.6	1.6	1.1	1.4	1.7	1.8	1.5	1.49
利用率(%)	86.9	67.5	82.6	84	58.6	68.5	88.1	91.1	76.8	74.9

入所利用者の状況(平成30年3月31日現在)

1. 特別養護老人ホーム

しおさいの里(定員:104人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
~59	1	1	2
60~64	1	0	1
65~69	3	2	5
70~74	3	4	7
75~79	5	9	14
80~84	10	16	26
85~89	7	15	22
90~94	1	16	17
95~	0	10	10
合計	31	73	104
平均年齢	79	85.5	83.5
最年長	91	101	101
最年少	53	59	53

(2)要介護度

	男性	女性	男女計
要介護1	1	3	4
要介護2	1	10	11
要介護3	10	13	23
要介護4	11	16	27
要介護5	8	31	39
合計	31	73	104

* 平均要介護度:(3.82)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	26	101	
	(柿崎区)	17		
	(頸城区)	12		
	(吉川区)	7		
	(上記以外)	39		
上越市以外の市町村		3		
合計		104		

2. 障害者支援施設

さいはま園(定員:20人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
~39	1	0	1
40~49	3	2	5
50~59	4	1	5
60~69	5	3	8
70~	1	0	1
合計	14	6	20
平均年齢	58.9	60.8	58.7
最年長	83	68	83
最年少	27	45	27

(2)障害程度区分

	男性	女性	男女計
区分1	0	0	0
区分2	0	0	0
区分3	0	0	0
区分4	1	0	1
区分5	3	1	4
区分6	10	5	15
合計	14	6	20

* 平均障害支援区分:(5.7)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	5	18	
	(柿崎区)	2		
	(頸城区)	1		
	(吉川区)	2		
	(上記以外)	8		
上越市以外の市町村		2		
合計		20		

3. 医療の状況

(1)入院の状況

しおさいの里	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
延べ入院者数(人)	31	32	35	23	27	23	41	22
総入院日数(日)	794	670	767	730	604	546	955	548
平均入院日数(日)	26	20.9	21.9	31.7	22.3	23.7	23.2	24.9

さいはま園	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
延べ入院者数(人)	5	12	9	17	21	8	11	14
総入院日数(日)	182	226	187	408	409	184	269	366
平均入院日数(日)	36	18	20	24	19.4	23	24.4	26.1

(2)経管栄養管理が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H21.3.31 現在	H22.3.31 現在	H23.3.31 現在	H24.3.31 現在	H25.3.31 現在	H26.3.31 現在	H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在
18	27	26	22	21	18	14	11	14	12

(3)痰の吸引が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在
28	31	14	37

4. 事故報告等

4-1. 事故報告の状況(報告先:高齢部門・各保険者、障害部門・新潟県)

29年度	特養 入所	短期 入所	通所 介護	障害 支援	合計
骨折	1			1	2
誤薬・誤飲	2				2
その他					0
計	3	0	0	1	4

28年度	特養 入所	短期 入所	通所 介護	障害 支援	合計
	2	1			3
	1			2	3
	1				1
	4	1	0	2	7

4-2. 感染症等発生報告

インフルエンザ	利用者	5	(特養1、障害2、通所2)
	職員	13	
感染性胃腸炎	利用者	0	
	職員	3	

28年度	利用者	1
	職員	7
	利用者	0
	職員	6

5. 退所者の推移

しおさいの里	~平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	累計
施設内で逝去(看取り)	101	5	9	5	24	15	12	14	14	10	12	221
医療機関で逝去	44	4	5	1	3	5	5	5	1	13	2	88
自宅復帰又は自宅で看取り	3								1	1		5
医療機関等へ転院(長期入院等)	8	1	4			1	2	1	1			18
合計	156	10	18	6	27	21	19	21	17	23	14	332

さいはま園	~平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	累計
施設内で逝去(看取り)		1									1	2
医療機関で逝去	4						1	1		2	1	9
自宅復帰(地域移行)	2											2
医療機関等へ転院(長期入院等)			2			1	1	1				5
合計	6	1	2	0	0	1	2	2	0	2	2	18

6. 入所待機者の状況(過去10年間)

(しおさいの里)

	上越市						他 市町村	合計
	大潟区	柿崎区	頸城区	吉川区	左記 以外			
H21.3.31現在	100	95	39	47	140		421	
H22.3.31現在	84	98	41	53	157		433	
H23.3.31現在	89	98	49	51	168	10	465	
H24.3.31現在	82	84	56	63	172	10	467	
H25.3.31現在	93	94	69	81	205	17	559	
H26.3.31現在	95	92	67	88	188	17	547	
H27.3.31現在	84	67	48	76	146	15	436	
H28.3.31現在	37	35	20	27	71	7	197	
H29.3.31現在	44	40	29	24	65	6	208	
H30.3.31現在	44	30	23	23	73	6	199	

(さいはま園)

上越市	他 市町村
11	
11	
12	
10	
13	
13	
12	
11	2
12	1
9	1

事業・職種別職員数一覧

H30.3.31現在

事業別 職種別		特養	障害支援	通所介護	地域包括 支援	居宅介護 支援	合計
統括施設長	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		1	0	0	0	0	1
課長 (事務長含む)	正職員	3	1				4
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		3	1	0	0	0	4
事務員	正職員	1	1				2
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
合計		2	1	0	0	0	3
生活相談員 (サービス管理責任者 含)	正職員	3	1	3			7
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		3	1	3	0	0	7
介護支援専門員	正職員	2			2	4	8
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		2	0	0	2	4	8
社会福祉士	正職員				3		3
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		0	0	0	3	0	3
看護職員	正職員	4	2		1		7
	臨時職員			1			1
	パート職員	3		2			5
合計		7	2	3	1	0	13
機能訓練員	正職員	1	1	0			2
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		1	1	0	0	0	2
介護職員(生活支援員)	正職員	39	9	1			49
	臨時職員	11	1	7			19
	パート職員	4	1	1			6
合計		54	11	9	0	0	74
管理栄養士	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		1	0	0	0	0	1
調理員	正職員	4	2	1			7
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
合計		5	2	1	0	0	8
施設支援員	正職員	1					1
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計		1	0	0	0	0	1
清掃洗濯員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	3	1				4
合計		3	1	0	0	0	4
宿日直代行員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1					1
合計		1	0	0	0	0	1
保安員	正職員						0
	臨時職員						2
	パート職員	2					0
合計		2	0	0	0	0	2
運転員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	1	1	2			4
合計		1	1	2	0	0	4
(嘱託医師)	正職員						0
	臨時職員						3
	パート職員	②	①				③
合計		②	①				③
合計	正職員	60	17	5	6	4	92
	臨時職員	13	1	8	0	0	22
	パート職員	14	3	5	0	0	22
合計		87	21	18	6	4	136

* H30.3.31付け退職者含む

職員の動向等

1. 採用の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日、平成30年4月1日付採用内定者含む)

	介護職員	看護職員	相談援助	調理員	保安員	運転手	清掃員	29年度計	28年度計	27年度
応募者数	7	6	7	4	3	2	3	32	22	23
採用内定者数	6	5	6	1	1	2	2	23	14	18
採用辞退者数	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0
本採用者数	6	5	5	1	1	2	2	22	13	18

雇用形態	正規	臨時	非常勤	計					
	12	2	8	22					
採用区分	新卒等	中途	障害者	計					
	2	20	0	22					

2. 退職の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

退職者数	介護職員	看護職員	調理員	運転手	清掃員	29年度計	28年度	27年度計	26年度計
	5	3	1	2	2	13	10	11	19
雇用形態	正規	臨時	非常勤						
	4	1	8						

3. 安全衛生管理の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

3-1) 職員の平均年齢・性別(平成30年3月31日現在)

職員数	男性	女性	平均年齢
136名	36名	100名	44.4歳
132名	34名	98名	43.8歳
129名	34名	95名	42.1歳

3-2) 職員健康診断の実施状況

定期健康診断	5月 (夜勤者)	11月 (全職員)	合計
受診者	42	123	165
要精密検査	5	51	56
産業医面談実施	0	7	7

3-3) 労働災害発生状況

内容	勤務中	通勤途上	合計
	2	0	2
			* 不休災害1件

4. 育児休業の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	女性	配偶者が出産した男性	合計
出産者	1	2	3
育児休業者	3	0	3

5. 介護休業の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

介護休業者	女性	男性	合計
	0	0	0

平成29年度施設外研修等一覧

日付	研修会・会議名等	主催	場所	参加者	参加人数
4/13	介護相談員派遣事業受け入れ事業所向けの説明会	上越市役所	市内	高齢(相談)	2
5/9	平成29年度「障害支援区分認定調査及び市町村審査会委員研修会」	新潟県福祉保健部障害福祉課長	市内	障害(機能訓練)	1
5/18	第37回 担当者研修会	上越地域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
5/22	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会	市内	地域包括	1
5/24	平成29年度障害福祉関係施設長会議	新潟県福祉保健部障害福祉課長	新潟市	施設長、支援課長	2
5/24	第19回衛生セミナー「安全な食品提供にむけて～HACCPによる衛生管理～」「HACCP基準化と衛生管理」	株式会社 タマルヤ	市内	栄養士	1
6/5	地域包括ケアの中の総合事業について～地域力・住民力で安心まちづくり～	(公社)新潟県社会福祉土会	新潟市	副施設長、地域包括	2
6/7	ラショナル スチームコンペクションオープン実演会	(株)ラショナル・ジャパン	市内	調理員	2
6/8	平成29年度 社会福祉施設職員接遇研修(リーダー養成コース)	新潟県社会福祉協議会	三条市	高齢(相談、介護)	2
6/9	上越地区安全運転管理者協会 平成29年度総会	上越地区安全運転管理者協会	市内	施設長	1
6/10	上越地域居宅介護支援事業推進協議会 総会・講演会	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	地域包括、居宅支援	4
6/13~14	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 平成29年度第1回総会・施設長会議について	関東甲信越地区身体障害者施設協議会・改組発表会・改組発表会	茨城県	施設長、介護	2
6/23	平成29年度新潟県身体障害者施設協議会 第1回総会並びに施設長・庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	施設長、支援課長	2
6/23	上越地区老人福祉施設 施設長・事務長会議	上越地区老人福祉施設 施設長・事務長会議	市内	事務長	1
6/30	第5ブロック会 平成29年度第1回研修会	一社 新潟県老人福祉施設協議会	市内	調理員	1
6/30~7/1	施設経営勉強会	あさひ園	弥彦村	支援課長、相談	2
7/6~7	第41回全国身体障害者施設協議会研究大会実践発表	全国身体障害者施設協議会	高知県	支援課長、相談	2
7/13~14	平成29年度社会福祉施設新任職員研修	新潟県社会福祉協議会 社会福祉研修センター	新潟市	高齢(介護)	1
7/14	平成29年度第1回 危険物安全協会頸北支部 頸北防火管理者協会 役員会	危険物安全協会頸北支部 頸北防火管理者協会	市内	施設長	1
7/14	平成29年度上越地区老人福祉施設事務員連絡会議	上越地区老人福祉施設事務員連絡会議(略称:上越地区老人福祉施設事務員連絡会議)	市内	事務	1
7/21	メイドカルケアサポートセミナー in 長岡 チームで取り組む虐待対策・感染対策～医療の視点から～	メイドカルケアサポートセミナー事務局	長岡市	高齢(看護、介護)	2
7/24	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会 小規模特別養護老人ホーム 大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
7/28	応急手当普及員再講習	上越地域消防事務組合消防本部消防防災課	市内	高齢(介護)、障害(介護)	2
8/2	平成29年度バザー講習会 食品提供報告書兼講習会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	栄養士	1
8/18	平成29年度頸北・名立地区介護専門員連絡会	頸北・名立地区地域包括支援センター	市内	居宅支援	4
8/25	平成29年度 新潟県身体障害者施設協議会職員研修会	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	障害(課長、介護)	2
9/4.他回	新潟県認知症介護実践者研修(魚沼地区)	社会福祉法人 苗場福祉会	湯沢町	高齢(介護)	1
9/7~8	第53回関東ブロック老人福祉施設研究総会	全国老人福祉施設協議会 関東ブロック人材育成会議連絡会 新潟県老人福祉施設研究会	新潟市	高齢(介護、看護)	4
9/12	第4回 平成29年地域医療支援病院 地域医療従事者に向けた研修	新潟県立中央病院 地域連携センター	市内	高齢(介護)	1
9/14	雇用保険業務電子申請手手続き説明会	上越公共職業安定所	市内	事務	1
9/15	地域包括ケアシステムの深刻化・推進と介護保険法改正案～介護業界に関わる全ての方へ～	上越市健常福祉部高齢者支援課 介護指導係	市内	地域包括、居宅支援	5
9/21~22	第38回関東・甲信越地区身体障害者施設職員研修大会	関東甲信地区身体障害者施設協議会	千葉市	障害(介護)	2
9/25	大潟地区運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会 小規模特別養護老人ホーム 大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
9/29	第4回上越在宅医療連携懇話会	MSD株式会社	市内	居宅支援	2
10/6	平成29年度 上越地域障害者支援施設協議会 職員意見交換会	上越地域障害者支援施設協議会	当施設	障害(課長、介護)	2
10/10	排泄ケアセミナー2017IN越後 御瘡ケア基本とスキンケアの実際	L. L. C. 地域ケア研究所	三条市	高齢(相談、機能訓練)	2
10/13	平成29年度居宅介護支援事業所団体指導	新潟県福祉保健部国保・指導課	市内	居宅支援	2
10/13	2017年度事例発表会 地域包括ケア 自立支援	ツケイ上越つちはし	市内	副施設長、地域包括、居宅支援	5
10/17	褥瘡予防とケア 体圧分散による予防と局所ケア	新潟県立中央病院	市内	高齢(介護)	1
10/20	平成29年度 新潟県身体障害者施設協議会支援担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	支援課長、相談	2
10/24	第5ブロック会平成29年度第2回研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	市内	看護、介護相談	6
10/25	平成29年度新潟県介護支援専門員実務研修 実習指導者事前研修	(一社)新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	1
11/2	平成29年度 上越地域障害者支援施設 視察研修	上越地域障害者支施設協議会	長岡市	障害(課長、相談、介護)	3
11/13	平成29年分 年末調整説明会	高田税務署	市内	事務	2
11/14	MCネット説明会	上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会	市内	高齢(相談)、居宅支援	2
11/15	第19期定期総会のご案内について	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
11/17	平成29年度新潟県身体障害者施設協議会 庶務担当者会議の開催について(ご案内)	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	管理課長、事務	2
11/18	社会福祉施設防火管理研修会	上越地城施設消防事務組合	市内	介護課長	1
11/20	「介護就職デイ」福祉就職面接会	ハローワーク上越 職業紹介部門	市内	事務長	1
11/22	平成29年度上越市地域包括支援センター職員全体研修会(第2回)	上越市高齢者支援課	市内	地域包括	2
11/22	平成30年度「第1回ふくしのひろば」会議	(社福)みんなでいきる りとるらいく、きら	市内	支援課長	1
11/24	新潟県栄養士 上越支部福祉部会研修会	新潟県栄養士会 上越支部 病院長・介護老人保健施設施設(きら)	市内	栄養士	1
11/27	第6ブロック会平成29年度第3回研修会	(一社)新潟県老人福祉施設協議会	市内	施設長、副施設長	2
11/27	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会・大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
11/28	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 第2回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	東京都	支援課長	1
12/4	平成29年度 新潟県高齢者権利擁護相談支援 事例検討会	(公社)新潟県社会福祉士会	三条市	地域包括	1
12/11	平成29年度 中越地区サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者現任研修会	中越地区サービスネットワーク・新潟県知的障害者福祉協会	長岡市	支援課長	1
12/13	上越地域在宅栄養ケア研修会	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅支援	3
12/13	上越総合病院 介護施設職員交流会	上越総合病院 地域連携センター	市内	高齢(看護、相談)	3
12/21	新潟県認知症介護基礎研修	(社福)長岡三古老人福祉会	長岡市	高齢(介護)	1
1/11	平成29年度HIV感染者・エイズ患者療養支援検討会	上越地域振興局健康福祉環境部(上越保健所)	市内	支援課長	1
1/15	介護支援専門員を対象とした研修会	(一社)上越歯科医師会 在宅歯科医療連携室	市内	居宅支援	4
1/16	平成30年 大潟区新年祝賀会	まちづくり大潟・大潟地域協議会・大潟区内会長会議会	市内	地域包括	4
1/19	地域共生～地域でともにいきる	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	地域包括	1
1/19	平成29年度地域包括支援センター職員全体研修会(第3回)	上越市	市内	地域包括	1
1/24	大潟区民生委員児童委員協議会定例会	大潟区民生委員協議会	市内	地域包括	3
1/26~27	施設経営勉強会	あさひ園	弥彦村	支援課長、相談	2
1/29	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会・大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
1/29~30	平成29年度認知症ケアステップアップセミナー	(社福)新潟県社会福祉協議会	長岡市	高齢(介護)	1
2/7	平成29年度 須北・名立地区キャラバン・メイト・フォローアップ研修会	頸北・名立地区地域包括支援センター	当施設	地域包括	4
2/9	平成29年度 新潟県介護支援専門員研修課程Ⅱ振り返り(反省会)	新潟県介護支援専門員協会	新潟市	地域包括	1
2/13	平成29年度 第2回理事会	頸北防火管理者協会	市内	施設長	1
2/7	働き方改革フェアin上越	リコージャパン株式会社	市内	栄養士	1
2/15	上越市高齢者自殺予防研修会	上越市健康づくり推進課	市内	居宅支援	1
2/23	上越市介護保険事業等に関する説明会	上越市高齢者支援課長	市内	管理課長、介護課長、相談	10
2/22~23	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 平成29年度 第2回総会・第3回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	長野市	施設長	1
2/27	平成30年度障害者雇用納付金制度申告申請事務説明会	(独法)高齢・障害・求職者雇用支援機構	市内	事務長	1

2/27	高齢者自殺予防・虐待防止研修会	上越地域振興局健康福祉部(上越保健所)・地域保健課	市内	介護課長、相談	2
2/27	入所判定会議	(社福)上越あたご福祉会・大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
3/1	平成29年度居宅介護支援専門員・訪問看護師合同研修会	上越医師会 在宅医療推進センター	市内	居宅支援	2
3/2	平成29年度 新潟県障害者施設協議会 第2回総会並びに施設長・し底務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	施設長、支援課長	2
3/8	上越保健医療福祉専門学校 卒業証書授与式	上越保健医療福祉専門学校校長	市内	施設長	1
3/8	頸城地域支え合い事業運営協議会	特定非営利活動法人びき振興会	市内	地域包括	3
3/9	平成29年度 县立大潟水と森公園外部評価委員会	(公財)新潟県都市緑花センター	市内	地域包括	1
3/13	平成29年度 頸北・名立地区キャラバン・メイト フォローアップ研修会	頸北・名立地区地区地域包括支援センター	当施設	地域包括	5
3/15	平成30年度 介護報酬改定に係る事業説明会	新潟県福祉保健部高齢福祉課長	新潟市	相談、地域包括、居宅支援	5
3/15	平成29年度第2回検討会(30年度介護保険制度・介護報酬改定と介護支援専門員に期待されること)	(一社)新潟県介護支援専門員協会	新潟市	地域包括、居宅支援	4
3/15	平成29年度総会の開催について(御案内)	頸北防火管理者協会	市内	施設長	1
3/15	平成30年度障害福祉サービス等報酬説明会	上越市健康福祉部福祉課	市内	地域包括	1
3/23	障害者総合支援法等関係説明会	新潟県福祉保健部障害福祉課長	新潟市	支援課長、相談	2
3/26	運営推進会議	(社福)上越あたご福祉会・大潟愛宕の園	市内	地域包括	1
3/31	「法改正に伴い介護支援専門員に求められるもの」	一般社団法人新潟県介護支援専門員協会 第5ブロック	市内	居宅支援	1

181

外部研修会での講演・発表・講師等一覧

日付	研修会・会議名等	主催	場所	参加者	役割
5/9、他5回	平成29年度新潟県認知症介護実践者研修	社会福祉法人上越老人福祉協会	市内	認知症介護指導者	講師
6/5	地域包括ケアの中の総合事業について～地域力・住民力で安心まちづくり～	(公社)新潟県社会福祉士会	新潟市	副施設長	発表
7/6～7	第41回全国身体障害者施設協議会研究大会実践発表	全国身体障害者施設協議会	高知県	支援課長、相談	発表
9/15	みなふくねっと・居宅介護連絡会合同研修会	みなふくねっと・南区居宅連絡会・新潟市南区役所	新潟市	副施設長	発表
10/13	2017年度事例発表会 地域包括ケア 自立支援	(株)ツクイ	市内	副施設長、地域包括	発表
1/11	平成29年度HIV感染者・エイズ患者療養支援検討会	上越地域振興局健康福祉環境部(上越保健所)	市内	支援課長	発表

平成29年度施設内研修等一覧

日付	研修会名	主催	講師(説明者)	参加人数
4/4,7,10	29年度事業計画及び法令遵守に関する職員説明会	しおさいの里等複合施設	統括施設長	111
5/24	メンタルヘルスに関する職員研修会	管理課・衛生委員会	上越地域振興局健康福祉環境部	46
5/30	認知症ケアの基礎研修	しおさいの里等複合施設	荒井認知症介護指導者	15
6/20	食中毒予防に関する研修会	衛生委員会・感染症対策委員会	二ノ倉管理栄養士	19
6/30	認知症の方の理解と対応(ステップ2:実践研修①)	しおさいの里等複合施設	荒井認知症介護指導者	21
7/10	介護技術マニュアル研修会	ケア向上委員会	委員	11
7/31	認知症の方の権利擁護(ステップ2:実践研修②)	しおさいの里等複合施設	荒井認知症介護指導者	13
8/31	血液感染症予防研修会	感染症対策委員会	県立中央病院(感染管理認定看護師)	25
9/20	KYT(危険予知トレーニング)研修	事故防止委員会	委員、あいおいニッセイ同和損害保険(株)	21
10/18	流行性感染症防止における技術取得研修	感染症対策委員会	委員	20
10/31	認知症ケアと地域のつながり(ステップ3:実践研修)	しおさいの里等複合施設	荒井認知症介護指導者	18
11/15	痰吸引実務研修	事故防止委員会	委員	19
11/29	看取りケアについて学ぼう研修	人権意識向上委員会	委員	29
12/14	口腔ケア講習会	食事委員会	小山歯科医師、藤井歯科衛生士、風景歯科衛生士	22
12/20	介護技術研修会(褥そう予防、スキンケア、排泄ケア)	ケア向上委員会	委員	20
3/29	上越市内の防災全般に関する講話	防災安全委員会	上越市危機管理課	35

445

職員資格取得状況一覧(述べ数)

資格・免許		平成29年4月1日現在	平成30年4月1日現在	増減
看護・機能訓練等	看護師	6	8	2
	准看護師	6	8	2
	作業療法士	1	1	0
	あんまマッサージ指圧師	1	1	0
	歯科衛生士	1	1	0
	衛生管理者	1	1	0
介護	介護福祉士	76	79	3
	ホームヘルパー1級	12	13	1
	ホームヘルパー2級	38	37	-1
	認定特定行為業務従事者(50時間研修修了者)	10	12	2
	認定特定行為業務従事者(14時間研修修了者)	43	41	-2
	認知症介護実践者研修修了	5	7	2
相談援助	認知症介護指導者養成研修修了	1	1	0
	主任介護支援専門員	3	3	0
	介護支援専門員	18	23	5
	社会福祉士	7	9	2
	精神保健福祉士	3	5	2
	サービス管理責任者	5	5	0
栄養	社会福祉主事任用資格	31	31	0
	管理栄養士	1	1	0
	栄養士	1	1	0
	調理師	8	8	0
計		278	296	18

*4月1日付採用内定者含む

特別休暇(自己啓発援助制度)の取得状況

資格	休暇申請者数	休暇取得日数(延べ)
-	0	0

外部実習受入及び地域交流等の状況(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1)専門実習、福祉体験学習等受入の状況

日付	実習名	依頼元団体	受入部門	人数
5/16～17,他9回	老年看護学Ⅰ実習	上越看護専門学校	しおさいの里	46
6/12～6/28	介護実習Ⅲ	上越保健医療福祉専門学校	しおさいの里	1
6/21,9/20	じょんのびカフェ	夕映えの郷	さいはま園	80
7/3,他11回	在宅看護論実習	上越看護専門学校	地域包括支援センター	13
7/10～7/12	介護実習	長岡こども福祉カレッジ	デイサービス	1
7/18,20,12/25	ふれあい交流	上越市立はまっこ保育園	デイサービス	40
7/31～8/4	職場体験学習(上越ゆめチャレンジ)	上越市立大潟町中学校2学年	しおさいの里、さいはま園、デイサービス	9
8/22,8/25	認知症介護実践者研修(施設実習)	ほほ笑みよしかわの里	しおさいの里	1
8/25	認知症介護実践者研修(施設実習)	三和愛宕の園	しおさいの里	1
8/30	地域包括支援センター実習	新潟県立看護大学	地域包括支援センター	5
9/13～15	職員交換研修	上越地域障害者支援施設協議会	さいはま園	1
9/14	認知症介護実践者研修(施設実習)	ほくら園	しおさいの里	1
9/20～28	介護実習Ⅰ	上越保健医療福祉専門学校	さいはま園	2
10/6	職員意見交換会	上越地域障害者支援施設協議会	さいはま園	12
10/31～11/12	介護実習Ⅰ	長岡こども福祉カレッジ	しおさいの里	1
11/1,10,15	利用者交流(総合的学習)	上越市立大潟町中学校3学年	しおさいの里等複合施設	33
11/28,29	介護サービス実務体験学習	(株)ブルーオーシャン	さいはま園	1
11/30	清掃活動・利用者交流	大潟町中学校奉仕クラブ	しおさいの里等複合施設	17
1/17	施設見学・記録PC化見学	障害者支援施設みのわの里	さいはま園	4
3/9	視察研修報告会・総会	上越地域障害者支援施設協議会	さいはま園	10
3/28	施設見学	障害者支援施設マイトーラ	さいはま園	3
				282

2)イベント開催・参加等の状況

日付	名称(場所)	概要	参加数
4/6他8回	「いきいきサロン」への講師派遣	体力測定や転倒予防の体操、認知症や生活習慣病予防の講話(地域包括支援センター)	110
4/24,9/30	うみまちフリーマーケット	地域住民ならびに団体に施設内を開放し、フリーマーケットを通じた施設と地域との交流を促進する	200
5/24	年輪会(潟町老人会)への講師派遣	地域支え合い事業の紹介、認知症に関する講話等(地域包括支援センター)	20
6/14	ガス水道フェアでの出張カフェ(認知症カフェうみまち茶屋)	おおがたかっぱ祭りと同日に行われる水道フェアに出店し、認知症に関する地域への啓発活動を行う	77
6/10	「第16回ふくしのひろば」(リージョンプラザ上越)への参加	アダプティッド・スポーツ(年齢や障がいを問わず、誰もが参加できるスポーツ)の体験交流会の実施(さいはま園)	200
6/24	地域貢献(社会奉仕)活動の実施	職員とその子どもが参加し、犀潟児童遊園の環境整備を実施(しおさいの里等複合施設・犀潟町内会合同)	16
7/14,12/12	施設内訪問衣類販売会	施設利用者に買い物の機会を提供する	200
7/16	「おおがた七夕☆絆まつり」(大潟コミュニティプラザ)への参加	利用者の作品展示、介護相談、福祉用具展示、スポーツの体験会等の開催(夕映えの郷と合同参加)	650
7/16	「おおがた七夕☆絆まつり」での出張カフェ(うみまち茶屋)	認知症カフェうみまち茶屋を出店し、認知症に関する地域への啓発活動を行う。	215
8/19	納涼祭の開催	利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民との交流を促進する(夕映えの郷との合同開催)	500
9/11,全3回	地域ケア会議	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みとして、地域の関係者で地域課題を協議(地域包括支援センター)	76
9/22他2回	認知症サポーター養成講座の開催	認知症を正しく理解し、認知症の人への「応援者」の養成(地域包括支援センター)	175
9/23	RUN伴(らんとも)への参加	NPO法人認知症フレンドシップクラブが主催する認知症啓発イベントに法人として参加する	50
			2489

3)介護予防事業(ココカラプロジェクト「だんだん広場」)開催状況

クラス名	開催時期	場所	実施回数	延参加人数
うのはなクラス	週1回(火曜日)	上越市大潟保健センター	47回	1,430人
さいがたクラス	週1回(水曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	46回	1,290人
さいがたクラス	週1回(木曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	46回	1,314人
合計			139回	4,034人

4)上越市地域支え合い事業(まちづくり大潟委託事業)

日付	名称(場所)	概要	延参加人数
4/14他,全10回	介護者家族の集い	介護者の悩み相談、介護者同士の情報交換の場、介護者教室(地域包括支援センター)	90人
4/28他,全12回	認知症カフェ「うみまち茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図つたり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)	343人
4/5他,全46回	介護予防教室「だんだん広場」水曜クラス	介護予防に筋力維持や改善、認知症予防等を目的とした体操やレクリエーションの実施するとともに、参加者同士が交流することによる生きがいづくりや社会参加促進の取り組みとして実施する	1,290人

5)ボランティア受入の状況

延受入回数	29年度:292回 (28年度:231回)	内容:利用者交流(お話等)、繕い物、納涼祭等のイベント補助、、余興(踊り、唄、太鼓披露等)、美容、生け花指導、書道指導、ハンドマッサージ、介護予防教室運営補助、認知症カフェ運営補助、クラブ活動補助、リネン交換、ラーメンの提供、その他
延受入人数	29年度:915人 (28年度:786人)	

6)施設設備・備品等の地域への開放・貸出

内容(29年度):フリーマーケットでの施設開放、介護者教室の開催(施設の開放、介護技術の提供)、地域交流スペース(ボランティアルーム)の貸出(認知症キャラバンメイト等)

7)広報活動等

名称	発行日等	備考
公式ホームページ(http://www.siosainosato.jp)	随時更新	年間アクセス数17,531件(月平均1,460アクセス)
あっと・ホーム	毎月1回発行	特養部門ご家族に配布
じょんのび・ネット	毎月1回発行	さいはま園ご家族に配布
ゆりかご通信	毎月1回発行	デイサービスセンターご家族に配布
地域包括支援センター広報「おおがたうのはな日和」	年1回発行(7月)	3,200部(大潟区内全戸配布)
上越タイムス	年3回掲載(8月、1月、3月)	施設紹介を兼ねた介護特集・協賛広告を掲載
新潟日報朝刊	H29.10月～12月(計7回掲載)	新潟キラリジエンヌ応援プロジェクトへの協賛広告
新潟日報朝刊	H29.8月～H30.3月(計9回掲載)	新潟・認知症キャンペーン「オレンジの輪」への協賛広告
新潟日報朝刊	1/1付け朝刊	年賀名刺広告
地域包括支援センター再配置に伴う周知チラシ	H30.2月発行	大潟区・頸城区地域回覧(500部)

苦情解決の状況

1) 苦情受付期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

2) 苦情受付件数

年度	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
件数	6件	4件	2件	5件	6件	10件

(6件の事業別内訳)

複合施設 全体	特養 (入所)	特養 (短期)	通所介護	居宅介護 支援	地域包括 支援	障害支援	その他
	2	1	1			2	

3) 苦情申出人の状況

	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
ご利用者本人	3件	2件	2件	1件	2件	6件
ご家族・身元引受人	3件	1件	件	3件	3件	3件
第三者 (介護支援専門員等)	件	1件	件	1件	1件	1件

4) 苦情の内容

No.1	内容	職員に車いすを蹴られた。注意と指導をしてほしい。
	原因	職員の態度(介助後、ご利用者から無視のような対応を受け、ご利用者に話を聞いてもらいたく、注意を引くために車いすのタイヤ部をつま先で軽く小突いてしまった)
	対応	誤解を招く行為であったことを自覚し、ご利用者に謝罪する。
	結果	今後はお互いに気持ちよく接することができるよう、言葉かけ等、互いに配慮し合うことを確認し和解する。
No.2	内容	トイレの介助中に職員から頭を叩かれたので注意してほしい。
	原因	ご利用者の思い込みと職員の対応(調査の結果、上記の事実なし。トイレで立ち上がりの介助の際、立位不安定やひざ折れなどでご利用者の頭部が前方の壁やスタッフの身体に当たってしまうことがあり、そのことが職員に叩かれていると認識させたと考えられる)
	対応	不安や不愉快な思いをさせてしまったことについてご利用者に謝罪し、介助方法の見直しを行った。
	結果	ご利用者の叩かれたという認識に変化はなく、介助方法の見直しについては理解が得られた(この事例についてはご家族ならびに保険者に報告し、了解を得ている)。
No.3	内容	ある職員の言葉がけがきつを感じられる。言いたいことが気兼ねなく言えるようにしてほしい。
	原因	職員の態度(ご利用者への接し方に対する配慮の意識が足りなかったこと)
	対応	該当職員に事実確認を行うとともに、今後の言動を改めることを申出者に伝え、謝罪する。
	結果	本苦情について、全職員で自身の言動に対しての振り返り、見直しを行った。
No.4	内容	朝、ベッドから起きたい時に職員を呼んだら、「(車いすを)自分で取って」と言われた。介護職員として、その態度は改善してほしい。
	原因	職員の態度(自分の仕事の立場を優先してしまい、ご利用者の訴えに向き合い対応しなかったこと)
	対応	該当職員に事実確認を行うとともに、ご利用者に直接謝罪を行った。
	結果	該当職員自身、今後はご利用者の立場に立って優しく対応できるよう、自分自身を改めることを伝え、ご利用者より了解を得る。
No.5	内容	ショートステイ利用時の対応について、入浴や着替え等の対応が事前に確認していた内容と異なっていたことに不満を感じている。もっとご利用者の立場に立って対応してほしい。
	原因	説明不足とサービス内容(ご利用者は利用当日の朝に38.2度の熱があったため、通常行っている個別対応より感染症対策を優先したことをきっかけに約束していたサービスが提供できず、対応に不備があったこと、またご家族に対する事前説明が不足していたこと)。
	対応	事前に確認していた利用時の個別対応に沿ったサービス提供がなされなかっことについて謝罪する。
	結果	従来の個別対応に加え、体調不良時の対応方法についてもご家族と確認しながら検討していくことを伝え、ご家族より了解を得る。
No.6	内容	デイサービスを週3回(月・水・金)利用していたが、担当のケアマネジャーから「月・金は職員が対応できないから中止、水曜のみの利用」と言われた。なぜそのような結論となったのか詳細を教えてほしい。
	原因	説明・情報不足と対応の仕方(月曜と金曜は利用者が多く、ご利用者自身から「知っている人がいるのでここにはいられない」という強い拒否感があった。そんな中、水曜だけは比較的少人数の環境での個別対応ができていた。その事実に関するご家族を含めた関係者間での共通認識にずれがあり、「職員が対応できない」という結論に至ってしまったこと)。
	対応	説明に不備・不足があったことを謝罪し、改めて詳細について説明を行った。
	結果	申出に対する回答について、ご理解をいただいた。

平成29年度地域包括支援センター運営事業報告書
地域包括支援センターうのはな苑

①総合相談支援

○相談件数

相談延件数	月平均件数
1,231	102

○相談経路及び方法

<相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	506	42
家族等	294	25
関係機関	396	33
相談協力員	34	3
その他	1	0

<相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	510	42
文書	4	1
来所	208	117
訪問	382	32
巡回	127	11

・相談件数は昨年より減少したが、来所者数増加しており、地域住民に周知ができているともに相談しやすい環境になっている。

・さらに地域への周知や活動の理解を広めるために大潟区健康診断や民生委員の定例会、大潟区新年祝賀会に出席し、PR活動を行った。

(1)実態把握

実態把握延件数	月平均件数
67	5

②権利擁護

○権利擁護に関する相談

	相談延件数
虐待(疑いを含む)	33
消費者被害	1
多重債務	0
日常生活自立支援事業	0
成年後見制度	8

(1)成年後見制度

・成年後見制度に関する相談者は3名。そのうち、2件の申し立て支援を行った。

(2)高齢者虐待への対応

・新規相談受付が3件。

・通報者は本人2件、医療関係者1件。3件の事実確認を行い、いずれも虐待の事実があると判断とした。

・虐待の種類は身体的虐待1件、放棄・放任2件、心理的虐待1件、経済的虐待1件であった。

・上越市の高齢者虐待防止マニュアルに沿って大潟区総合事務所と連携を図り、コアメンバー会議、対応評価会議を実施し、介護サービスの導入や福祉施設への入所などの支援を行い、いずれも終結している。

(3)困難事例への対応

・地域住民や介護支援専門員から相談があった場合には、区総合事務所に連絡し、情報共有や支援方法の検討を行った。

・必要に応じて関係者とケース会議を行った。

(4)消費者被害防止

- ・介護予防教室の参加者やボランティア74名に対し、上越警察署から特殊詐欺にあわないための講話を開催した。
- ・家族から消費者被害が1件あり、消費生活センターに確認を行うなどの支援を行った。
- ・大潟区総合事務所から消費者被害防止に関する情報提供もあり、訪問時に周知を行った。

③包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1)地域ケア会議

	開催日	内容	参加人数
第1回	9月11日	高齢者だけではない！家族全体に支援が必要な場合どうしたらいいのか考える	28名
第2回	2月23日	大潟区を知る。見守りについて考える	16名
第3回	3月16日	高齢者以外の家族に支援が必要な場合、地域での発見、情報提供について考える	32名

- ・4月に大潟区総合事務所、居宅介護支援事業所の管理者と地域課題を把握するための打ち合わせを行った。
- ・参加者は各町内会長、民生委員、まちづくり大潟、老人会、介護保険事業所。第3回には夕映えの郷職員にも参加していただき、地域課題の確認や日ごろの活動の振り返りを行った。

(2)介護支援専門員に対する支援

	相談延件数
担当者会議	10
同行訪問	30
単独訪問	18
社会資源の紹介	5
関係機関の調整	25
ケアマネへの研修会	1
本庁・総合事務所への連絡	13

- ・居宅介護支援事業所の管理者と個別地域ケア会議や地域ケア会議について意見交換をした際に、管理者同士が日ごろの悩みを相談する機会となった。
- ・介護支援専門員に対する研修は1回、頸北名立地域包括支援センター合同で上越市高齢者支援課小林兼吉様より「利用者の自立支援」について考える研修会を開催した。参加者の88%が参考になったと回答があった。

(3)個別地域ケア会議

- ・大潟区と頸城区の合同開催でそれぞれ3回ずつ、計6回実施した。
- ・大潟区総合事務所と地域の居宅介護支援事業所の管理者と事例の選定や事前打ち合わせを行い、運営のサポートをした。
- ・今年度は頸城区開催の時にも事前打ち合わせに参加し、取り組みの共有を図った。

④第1号指定介護予防支援(介護予防マネジメント)

○認定者の状況(平成30年3月末現在)

認定者数	予防給付			介護予防ケアマネジメント		
	チェックリスト	要支援1	要支援2	利用者数	うち委託数	利用者数
28	35	77	78	40	33	11

- ・介護予防ケアマネジメントA及びBのケアプランは市に提出し、適正なケアプランとなっているか確認してもらっている。
 - ・市主催の研修会に参加し、自らのケアプランの点検を行った。
- 認定者数については例年とほぼ横ばいの状態が続いている。

⑤介護予防に関する普及・啓発を行う事業

(1)だんだん広場

- ・登録者は3クラスで107名。介護サービスに移行等で終了した方が7名。その他の理由で中止した方が2名であった。
- ・年2回、効果測定を実施し、取り組みの評価を行い概ね維持もしくは改善の方が多く、取り組み内容に一定の成果があると考えている。
- ・年3回介護予防推進会議を開催し、取り組みの状況や利用者の様子を共有するとともに、運営方法の意見交換を行った。

(2)介護者のつどい

- ・毎月第2金曜日(8月を除く)を開催する予定だったが、1月は大雪のため中止とした。
- ・介護の相談や情報交換だけではなく、ケアハウスや生活支援ハウスなどの施設見学や区保健師や管理栄養士による健康講座など日ごろの介護ストレスからの息抜きの場となっている。
- ・しおさいの里高齢介護課の協力を得ておむつ交換や食事介助の介護者教室を開催した。

(3)認知症力フェ

- ・毎月第4金曜日に開催し、平均30名程度の参加者が集まるようになった。
- ・「大潟ガス水道フェア」での出張力フェや「おおがた七夕絆まつり」の出店など多くの地域住民に活動のPRを行った。
- ・毎回、認知症の理解や予防についてのミニ講座を開催し、参加者が楽しみにしている。
- ・年2回の運営委員会を開催し、活動の振り返りや運営方法について協議を行った。

(4)認知症センター養成講

- ・地域や小学校、高校等から依頼を受け認知症センター養成講座を開催。新潟日報主催の福祉フェア、ラン伴(認知症支援のイベント)にも参加し、幅広く地域で認知症の理解・対応力の普及活動を実施した。

(5)講師依頼

日程	事業名	参加者数	内容
4月6日	渡柿浜いきいきサロン	21名	脳トレ、健康講話
4月18日	上小船津浜いきいきサロン	5名	体力測定、脳トレ
4月19日	下小船津浜いきいきサロン	6名	体力測定、脳トレ
4月20日	土底浜いきいきサロン	23名	体力測定、脳トレ
5月24日	潟町老人会(年輪会)	20名	介護予防の取り組みについて
6月22日	犀潟いきいきサロン	30名	体力測定、介護予防について
6月23日	メンズサロン	15名	健康講話
8月22日	上小船津浜いきいきサロン	9名	健康講話

- ・地域包括支援センターの周知と地域で介護予防に取り組む機会となっている。